

平成 26 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 聖ヨハネ会

# 社会福祉法人聖ヨハネ会

## 基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

## 基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

## 職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力に努めます。

## 活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差しのべ、その必要に応じて最善を尽くします。

# 平成 26 年度事業報告

## 目 次

一	法人本部事業報告	1
二	事業経営	4
	1 障害福祉部門	4
	2 高齢福祉部門	20
	3 医療部門	44
	4 公益事業部門	52
	5 収益事業部門	56
三	理事会並びに評議員会	57
四	経営会議	60



# 一 法人本部事業報告

## 【はじめに】

今年度は法人の中期行動計画（平成 26 年度～28 年度）の初年度であり、前中期行動計画から引き継ぐ形で中期的な行動内容について①サービスの質の向上②公益的取り組みの推進③トータルな人材マネジメントの実現④組織統治（ガバナンス）の確立という 4 つの視点で計画しスタートした。

このうち「サービスの質の向上」では長年の念願であった桜町地区の敷地内に郵便ポストを設置することが出来た。また障害福祉部門の東京地区（障害者地域生活支援センター）に苦情解決第三者委員会を新たに設置した。さらにサービスや日常の活動を提供する方法として、法人のブログをホームページに公開することも進めた。

「公益的取り組みの推進」では、桜町病院が中心となり市民講座を開催した。（平成 26 年 4 月に「胃の病気とピロリ菌」同 8 月に「薬と上手に付き合う方法」平成 27 年 3 月に「糖尿病と腎臓関係の合併について」）地域に向けた講座やセミナーを開催していくことを始めることが出来た。

「トータルな人材マネジメントの実現」については、平成 26 年 11 月に法人全体を対象としたボーリング大会を小金井市で開催し職員の交流を図った。法人として初めての試みであったが山梨地区の職員も参加でき、有意義な集まりであった。継続していきたい。

「組織統治（ガバナンス）の確立」では、新会計基準による経理規程を整備し財務状況をこれまで以上に透明化し公開することとした。また予算・決算の総括表を作成することも可能とした。障害福祉部門と高齢福祉部門においては、事業規模が拡大化したことや、実態の運営との齟齬を埋めるべく、組織体制を整備し組織規程を新たに作成した。

前中期行動計画から各部門において具体的な活動内容を「5 年後の姿」として検討を進めてきたが、障害福祉部門においては、富士聖ヨハネ学園の改築が 3 年間の工期を経て平成 27 年 3 月に竣工した。延床面積 6,700 m<sup>2</sup>を超える建物の改築であり、部屋面積の基準も従来の 3 倍となるなど大規模な改築となった。大変多くの方からのご支援をいただき、また昨年のお大雪による工事中断など想定外のことが起こる中で、設計・監理・施工の各部門で尽力いただき無事に竣工を迎えたことに深く感謝申しあげる。また東京地区においても東京へ戻られる利用者のための生活の場の提供といったことを検討し、小金井聖ヨハネ支援センターの建設を同じく 3 月に竣工することが出来た。この建物は生活介護・就労支援・共同生活援助の各事業を展開する複合施設となる。こちらについても東京地区の拠点整備として念願であった建物が無事に竣工したことに感謝申し上げる。これらを数年のうちに軌道に乗せ、安定した運営を図っていくために部門と協力して取り組んでいきたい。

高齢福祉部門においては、ここ数年来の収支悪化を改善すべく財務改善プロジェクトを立ち上げて収入の確保と支出の削減を進めてきたが、単年度での回復とまでには至らない結果となった。特養の入所サービス部門では待機利用者を取り込んでいきほぼ 100%の稼働を計画したが、感染症、誤嚥、脱水等により入院となる利用者があり計画通りにはいかな

かった。在宅サービス部門では事業の選択と集中を検討し、そこに配置する職員数も検討した結果、下期から予算を達成するところまで回復してきている。部門として3年間かけての収支改善を新たな目標とし取り組んでいきたい。

医療部門は、前年度の赤字を解消すべく取り組んできたが今年度も赤字計上ということになった。一番の要因は患者数が少なかったということになると考えるが、その原因を特定することは難しい。2025年問題を見据えた医療の体制整備に向けて政策誘導がなされる中で、病院機能の在り方について検討を開始した。地域における病院の位置づけを再確認し必要な医師等を確保しつつ、医療制度の方向性や診療報酬改定を見ながら、流れに乗り遅れない対応をしていきたい。

社会福祉法等の一部を改正する法律案が国会に提出され、福祉サービスの供給体制の整備及び充実を図るためにガバナンスの強化や事業運営の透明性、介護人材の確保の推進を進めることとなっている。福祉ニーズが急増し、社会福祉法人に期待される動きがある一方、福祉の担い手として制度に捉われることなく先駆的な取り組みを実施することや、非課税にふさわしい経営の合理化、効率化をしていかなければいけないという社会の目も今まで以上に厳しくなっている。真摯に取り組む必要があると感じる。

#### 【事業報告】

1. 事業計画書に則り昨年度から引き続いて、各施設との関わりを持つことを目的として施設の運営会議や管理会議等へ参加をした。
2. 高齢福祉部門の「財務改善プロジェクト」を進めた。
  - (ア) 短期的な収益の改善  
利用率を再設定し、ほぼ100%の稼働になるような利用者の確保を進めた。  
同時に人件費を中心とした支出の最適化を検討した。
  - (イ) 地域におけるニーズを把握したサービスを提供するための事業の再構築  
ニーズを把握し、選択と集中を進めることで、職員の配置も含めた最適な運営の検討を進めた。
  - (ウ) 事業運営に合致した組織体制の構築  
入所サービス部門と在宅サービス部門それぞれに体制を整備し、組織体制を再構築した。
3. 新会計基準への移行を実施し、経営状況と財務状況を明示できるよう、法人全体の予算・決算の総括表を作成するための整備をし、会計処理の統一化を図った。(勘定科目の整理、処理ルール統一、月次作成ルール統一、システムの統一化、等)
4. 今年度も事業運営の根底となる規程類を整備した。
  - (ア) 新会計基準移行に伴う経理規程の改訂
  - (イ) 高齢福祉部門組織規程の制定
  - (ウ) 障害福祉部門組織規程の制定 等
5. 小金井訪問看護ステーション、聖ヨハネホスピスケア研究所、シニアハイムさくら及び障害者地域生活支援センター関連の、会計業務及び事務業務をサポートした。
6. その他活動については、後述の経営会議の活動実績を参照されたい。

7. 庶務・登記・監査事項等

1) 定款変更認可申請

平成 27 年 3 月 23 日認可

認可内容：基本財産の持分の計算による誤記のための変更

基本財産の分筆による表示の変更

2) 定款変更届

平成 26 年 10 月 17 日受理

届出内容：基本財産の追加（障害福祉サービス事業のための建物、富士北麓聖ヨハネ支援センター）

3) 登記

登記年月日	登記内容
平成 26 年 5 月 30 日 平成 26 年 4 月 18 日	資産総額（4,640,465,644 円） 基本財産 （山梨県富士吉田市下吉田東一丁目 2521、2522 番 1 の建物）

4) 指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
平成 26 年 5 月 9 日	決算監事監査	村松監事、駒村監事
平成 26 年 11 月 26 日	平成 26 年度社会福祉法人等指導監査（富士聖ヨハネ学園）	山梨県福祉保健部監査指導室
平成 27 年 1 月 22 日	障害福祉サービス実地検査	東京都福祉保健局指導監査部

5) 調査等

提出年月	提出内容	提出先
平成 26 年 6 月	社会福祉法人調査票	東京都福祉保健局指導監査部指導調整課指導調整係
平成 26 年 7 月	事業報告書	独立行政法人 福祉医療機構
平成 26 年 7 月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
平成 26 年 7 月	省エネ法改正に伴う特定事業者の中長期計画書、定期報告書	関東経済産業局 関東信越厚生局

## 二 事業経営

### 1. 障害福祉部門

#### 【 総 括 】

##### (富士聖ヨハネ学園)

平成 26 年度は社会福祉法人の改革が様々な方面から言われた一年であったように思われる。障害者総合支援法等に関する施設・事業については他の経営主体とのイコールフットィングの観点などから、社会福祉施設職員等退職手当共済制度の公費助成について平成 28 年度より廃止することが決定した。これは事業者にとって財政面で大きな負担となり、来年度の大きな課題である。また平成 27 年度は報酬改定の年にあたる。内部留保の問題がマスコミに取れ上げられる中、国はサービス事業の経営実態調査を行いその結果を基に報酬改定を決めていくということのであろうか。また来年度は障害者総合支援法の施行 3 年目に当たり法律の見直しの年でもあり、どんな議論がされるのであろうか。

事業運営面では、東京都の補助金であるサービス推進費が平成 26 年度本施行となり、富士聖ヨハネ学園では基本支給額に上乗せ支給される努力加算を取得すべく、加算対象項目である最重度加算の追加承認を進めている。平成 26 年度は 26 名の最重度加算の承認を頂き約 2,700 千円/年/人、総額で 69,500 千円/年の支給増となった。これにより平成 21 年度交付金額 290,000 千円から、平成 26 年度基本支給額のみの場合 90,000 千円（約 200,000 千円の減額予想）のところ、今回努力加算をもらうことにより補助金支給総額は 165,000 千円となり、当初予想 135,000 千円減が 計算上 125,000 千円減に収まり、ほぼ予想通りの減額に収まることができた。

富士聖ヨハネ学園の改築に関しては、平成 26 年 10 月に建物の改築工事がほぼ終了し、引き渡しが行われた。それに伴い利用者さんは新しい建物での生活が始まった。また利用者の地域移行も進み同 10 月には、富士北麓地域のケアビレッジへ 3 名、東京地区のケアビレッジへ 1 名の方が地域移行された。

また富士北麓地域での事業である富士北麓支援センターが同 4 月よりスタートした。現在 30 名の方が通所している。地域から期待されていると同時に、厳しい目も寄せられていることを感じながら事業を進めている。

##### (障害者地域生活支援センター)

障害者総合支援法の改正動向を踏まえ中期行動計画を推進し平成 27 年 3 月小金井聖ヨハネ支援センター新築工事を竣工した。また、平成 26 年 10 月には相談支援事業所を開設した。法改正の施行は、2 段階で進められており、平成 26 年度は ①障害程度区分を障害支援区分に改め、サービスの利用が障害の重さではなく個々の特性に応じて適切に行われるようになった。②グループホームの一元化などが行われた。なお、サービス基盤の計画的整備については平成 25 年 4 月に施行されている。

センターとしては、新たな施設の整備は、法人内外の多くの皆様の理解と協力がなければ成らなかったことであり関係する皆様に対して心から感謝を申し上げるとともに、皆様の期待に応えていきたい。引き続き、利用者のニーズに応えられるよう事業目的を達成し、法人の理念を行動



で現せるように、たゆまぬ努力と一致した職員の行動力を結集していく所存である。また、職員に対しては、通年の事業運営と共に新規事業の開設に漕ぎ着けた尽力と労苦をねぎらうとともに成果を分かち合い次の活力としたい。

年度末には、障害福祉部門の富士聖ヨハネ学園(山梨地区)と障害者地域生活支援センター(東京地区)は組織再編を実施し、同時に組織規程の制定を行った。これにより、東京地区・拠点名「障害者地域生活支援センター」は、6事業所、4部7課体制となる。組織規模が拡大する中で各事業所の事業運営と連携体制の強化を図り、効率的で一体的な組織運営と良質かつ等質なサービス提供を確保するために組織再編を行った。グループホームは、ユニット方式による一元化を図り、管理職の適正配置をめざした。今回の組織再編により、サービス、人事、財務を含めた事業の質の向上、体制強化、一元管理の方向づけができた。これまでのサービスを点検・見直しを行うとともに、地域の障害者が抱える「重度化、高齢化」「親亡き後の生活」などの課題を見据えて地域支援の強化とサービス提供体制の充実に努めたい。時同じく、社会保障審議会では社会福祉法人制度改革が討議され、全ての社会福祉法人に対して社会貢献活動の実施が義務付けされたところである。センターとしても地域貢献策を具体的に検討し、新しいことにも意欲的に取り組んでいきたい。

会計面においては、平成23年社会福祉法人新会計基準が定められ、平成26年度決算までが移行期限とされており、法人内で3ヶ年の移行準備を経て平成27年度予算から新基準で作成した。この目的は、法人全体の財務状況を明らかにし、経営分析を可能とするとともに、外部への情報公開に資するものとされ、法人全体での統一した取り組みとなった。

I 富士聖ヨハネ学園  
(生活介護・施設入所支援・短期入所)

【平成 26 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均 利用者数	利用率 (H26度)	利用率 (H25度)	利用率 (H24度)
生活介護 H26.12～	180名 →154名	148.8名	86.8%	88.3%	92.8%
施設入所支援 H26.12～	150名 →122名	124.5名	88.5%	90.6%	92.2%
短期入所 H26.12～	8名 →6名	5.0名	72.5%	43.3%	57.5%
相談支援事業	—				

平均年齢 46.5歳 (最高 83歳、最低 19歳)

男女比率 78名 (男子) : 68名 (女子) 53 : 47

平均在所期間 20.7年 (最長 42.7年)

年間入所 8名

年間退所 20名

【職 員】

	平成 26 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 27 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
園長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
副園長	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生活支援員	72	30	102	1	3	11	5	12	8	70	36	106
事務員	4	2	6	0	0	0	0	0	0	4	2	6
栄養士・ 調理員	5	12	17	0	0	0	1	0	1	5	11	16
設備等	3	14	17	0	1	0	4	0	5	2	10	12
医師	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
看護師	3	3	6	0	0	0	0	0	0	3	3	6
医療事務員	0	1	1								1	1
合計	88	63	151	1	4	11	10	12	14	85	64	149

### 【施設運営状況】

前述のとおり平成26年10月には新しい建物が完成し前年8月より1課、2課の利用者は旧職員宿舎棟での仮住まい生活であったが新しい生活の場所へと引っ越した。それと同じく、3課・4課の利用者も新しい生活の場所に引っ越し、3課・4課の建物解体が始まった。建物以外の残工事も平成27年3月に終了し同4月には竣工式が行われた。新しい「くらしの場」では一人一人が個室の生活となった。利用者・職員共に戸惑いの生活が続いていたようだが年度末には利用者・職員共に新しい建物・生活にも慣れてきたようである。改築に伴う利用者定員の削減を地域移行という形で進めた。富士北麓地域のケアビレッジに合計5名、東京地区に1名の方が地域移行をすることが出来た。12月には入所者の定員を150名から122名と変更し、新たな富士聖ヨハネ学園がスタートした。

#### 障害者支援施設

生活介護定員 154名	現員 146名 (3月末)
施設入所定員 122名	現員 121名 (3月末)

### 【利用者支援状況】

新しい建物は2つの棟からなり基本16名を1つのユニットとした形式を採用している。3階建のソフィア棟は2階・3階に高齢の方に生活しやすい作りになっている。入浴設備は機械浴を導入している。職員も介護の資格者を多く配置している。また、2階建てのフィリア棟は若い利用者を中心にしたユニットを作っている。

このように新しいユニットになり、利用者の特性・ニーズを理解して個別支援計画を作成したが、まだ十分に機能できなかつたように思う。これは来年度の課題である。

高齢者支援の充実面ではOT・PTも月2回来園して支援いただいている。

年度の後半に職員の再編などありOT・PTとの連携が停滞している面も見られた。これも来年度の課題である。

### 【施設整備状況】

平成26年度は 学園改築の最終年度ということもあり 昨年10月には建物が完成、残っていた3、4課の建物を取り壊し、造成、植栽工事等を終え 年度末に引き渡しを終了した。着工から約2年、大きな岩盤に予想外の掘削工事を行ったり、昨年2月の記録的な大雪の為工事が中断されるなどいろいろなアクシデントもあったが予定通り昨年度末引き渡しを受け、この4月、無事竣工式を迎えることができた。

資金的には追加工事等の増もあったが備品関係等の減もあり予算額よりトータル42,000千円の減となり、銀行借入れ金額(5.5億を5.0億)を減額することができた。

**【教育研修】**

研 修 名	月 日	場 所	出 席 者
新任職員研修会	3月26日～27日	学園研修室	3名
ベッド上でのポジショニング	6月9日	学園生活棟	18名
関東地区知的障害者福祉関係職員研修会	7月10日～11日	水戸市	4名
全国カトリック福祉施設職員研修	9月25日～27日	石和	9名
感染症対策の研修	10月15日	学園会議室	9名
支援者の介助ポジション研修	11月12日	ソフィア2F	20名
車いすの介助の研修	11月27日	ソフィア2F	25名
施設から地域での生活を知る	11月30日	ソフィアホール	80名
感染症予防の研修	12月15日	ソフィアホール	30名
5施設共催研修（人権と権利擁護）	3月7日	山梨市市民会館	13名

※その他学園全体において計 45回の研修 延べ外部研修 76名、園内研修 258名参加

## Ⅱ 山梨地区グループホーム（共同生活介護・共同生活援助）

### 【平成 26 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率 (H26度)	利用率 (H25度)	利用率 (H24度)
河口湖聖ヨハネケ アービレッジ	10名 →10+1	10.3名	98.4%	99.2%	100%
明見聖ヨハネ ケアビレッジ	6名 →7名	6.5名	100%	100%	100%
城山聖ヨハネ ケ アービレッジ	5名 →7名	6.0名	100%	-----	-----
忍野聖ヨハネ ケアビレッジ	7名	7名	100%	100%	97.6%

平均年齢 52歳（最高67歳、最低24歳）

男女比率 15名（男性）：17名（女性） 47：53

平均在所期間 7.5年（最長22.5年）

年間入所 6名

年間退所 1名

### 【職 員】

	平成26年4月1日 の職員数			年間退任・就任						平成27年3月31日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	5	9	14	1	0	1	0	2	0	6	10	16
合計	5	9	14	1	0	1	0	2	0	6	10	16

### 【施設運営状況】

「富士北麓聖ヨハネ支援センター」の開設に伴い、建物の老朽化が激しい「下吉田ワークセンター」「下吉田ケアビレッジ」は、それぞれ「富士北麓聖ヨハネ支援センター」「城山聖ヨハネケアビレッジ」に年度当初移行した。

「富士聖ヨハネ学園」の定員減に対応するために「城山ケアビレッジ」「明見ケアビレッジ」は、家主の協力により、増築工事を行っていただき、年度途中で定員をそれぞれ2名、1名増員をはかり、「富士聖ヨハネ学園」より地域移行者を引き受けた。

更には、市内の民間アパート1戸を「河口湖ケアビレッジ」のサテライト住居とし、こちらも「富士聖ヨハネ学園」より地域移行者を引き受けた。

そのため年度当初合計28名であったケアビレッジ利用者は、年度末には32名と増員された。

## 【利用者支援状況】

### ①利用者間トラブルの回避

以前よりトラブルメーカーであった利用者さんについて、これ以上 CV での共同生活を続けることは困難という判断から、年度末に関係者会議を開き、退所・一人暮らしに向けて相談支援事業所が動いている。

### ②サテライト住居の新設

富士吉田市内のワンルームアパートをサテライト住居として指定を受け、現在青年一人が一人暮らしをしながら富士北麓聖ヨハネ支援センターに通っている。何らトラブルなく生活をしている。

### ③高齢・虚弱化への対応

虚弱傾向が著しくなった「河口湖 CV」の男性高齢利用者さんを、男性職員の夜勤体制のある城山 CV へ移ってもらい対応を図った。(最終的には「富士聖ヨハネ学園」への入所となった。)

## 【施設整備状況】

予算組していた「忍野 CV」の倉庫は検討した結果、宅内に棚を設けることで対応し、購入はしないこととした。

「忍野 CV」の雨洩りについては、家主の負担で改修工事が行われた。

「城山 CV」「明見 CV」の定員増に伴い、防災設備工事が追加された。

## 【教育研修】

研 修 名	月 日	場 所	出 席 者
全国グループホーム研修大会	7月24日～25日	神戸ポートピア	1名
感染症対策の研修	10月15日	学園会議室	2名
グループホーム研修	11月6日～7日	東京都	1名
施設から地域での生活を知る	11月30日	ソフィアホール	4名
感染症予防の研修	12月18日	富士北麓聖ヨハネ支援センター	4名

Ⅲ 富士北麓聖ヨハネ支援センター  
(生活介護/就労継続支援 B 型/短期入所)

**【平成 26 年度利用状況報告】**

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H26度)	利用率(H25度)	利用率(H24度)
就労継続 B 型	15名	13.0名	87.2%	-----	-----
生活介護	35名	14.5名	41.4%	-----	-----
短期入所	3名	1.0	33.1	-----	-----

平均年齢 36 歳 (最高 60 歳 最低 19 歳)

男女比率 7 名 (男子) : 6 名 (女子) 54 : 46

平均在所期間 0.8 年 (最長 11.0 年)

年間入所 14 名

年間退所 1 名

**【職 員】**

	平成 26 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 27 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	7	6	13	1	0	4	1	5	1	8	9	17
看護師												
合計	7	6	13	1	0	4	1	5	1	8	9	17

**【施設運営状況】**

昨年 4 月 11 日、富士吉田市長はじめ関係諸団体の方々をお招きして開所式が執り行われた。利用者 26 名 (生活介護 15 名・就労継続支援 B 型 11 名) での門出であったが、年度末には 30 名 (生活介護 17 名・就労継続支援 B 型 13 名) となった。

生活介護の利用者さんは高齢者・車椅子使用者が多いため、日中の活動は健康維持と創作活動が主体となった。

就労継続支援 B 型では、富士聖ヨハネ学園と「施設外就労」の契約を結び、洗濯作業、陶芸作業に職員及び利用者を派遣した。センターに残る利用者は主に携帯電話の解体作業や、部品の組み立てを行い、下吉田ワークセンターより続く「せんべい焼き」は、味付けや包装の見直し・開発を行ない、他商品との差別化を図るべく取り組んでいる。

念願であった常勤看護師を年度途中に採用することができ、利用者の健康管理の充実が図られるようになった。介護福祉士との連携を図り、高齢者・車椅子利用者が安全・安心に生活できる体制を整えつつある。

短期入所については、富士聖ヨハネ学園の通所部と連携をとりながら行っており、利用人数、

利用日数は着実に増加している。

開設以来、難病指定患者の入浴サービスの依頼を受け実施したように、他の施設での利用を断られる方の利用希望、実習依頼が多く、地域社会がヨハネ会に対して期待しているもの大きさを身にしみて感じながらの運営を行っている。

### 【利用者支援状況】

障害の程度が、重症心身障害と呼ばれる方から、発達障害、ボーダーに位置する方まで、年齢差は70歳近い方から支援学校不登校の17歳まで、個々の程度差が著しい集団なために、一括の支援が難しい。個別対応することが多く、職員の支援方法の統一化が課題となっている。

また、通所施設という特性上、保護者との連携が欠かせないが、家庭でのストレスを施設に持ち込み、それが全体に波及してしまうケースが見受けられ、こちらも大きな課題となっている。

### 【施設整備状況】

特になし

### 【教育研修】

研 修 名	月 日	場 所	出 席 者
富山型デイサービスを知ろう	6月7日	富士吉田市民会館	5名
相談支援従事者現任研修	7月11日	甲府市	1名
ピア・カンセリング研修	8月18日	富士ふれあいセンター	1名
小金井研修（イバニエス神父さま）	11月6日～7日	聖霊修道会マリア館	2名
感染症予防の研修	12月18日	富士北麓聖ヨハネセンター	8名
5施設共催研修（人権と権利擁護）	3月7日	山梨市民会館	2名



## IV 障害者地域生活支援センター

(共同生活介護・共同生活援助・就労移行支援・就労継続支援)

### 【2014年度の特記事項】

#### 1) 小金井聖ヨハネ支援センター新築工事の竣工 平成27年3月31日

小金井聖ヨハネ支援センターの新築整備によって、中期行動計画5ヶ年計画に基づく施設整備、組織体制・サービス提供体制の強化充実の取り組みはほぼ出揃った。残り1年間の計画期間において、ソフト面も含めて当初の計画通り事業を軌道に乗せたい。また、組織・サービス事業の再編を合わせて行い、所定の事業開始届、指定申請、変更届、廃止届など都庁の事務手続きも終了した。工期については、7月8日に着工し、9ヶ月の3月31日に竣工した。年度内補助事業であり終盤の内装・設備施工や諸検査は厳しいスケジュールであったが、3月31日の引き渡しに遅れることなく竣工することができた。工事資金は、建築資材や労務費等の高騰のため落札額が当初予定価格を大幅に超過する結果となり、27年度の工事費等支払いに合わせて法人本部から借入融資を受けることとなった。

#### 2) 東京都地域移行促進コーディネート事業受託

・聖ヨハネ会として受託した事業で、ヨハネ学園の利用者を主に都外関東西ブロックの入所施設から都内への地域移行と事業の啓発、自治体・都内施設・相談事業等との連携を行った。グループホームの見学体験や地域移行経験者のピアサポートを通して、利用者等に地域生活の理解を深めて頂いた。

#### 3) 地域生活移行定着化支援の取り組み

- ・平成25年度に引き続き、ヨハネ学園との連携により、学園から職員を異動配置し、利用者の地域生活移行・定着化支援、生活安定に役立った。
- ・平成26年度は、2名施設入所者の地域生活移行・定着化支援を実現するとともに、更にグループホームの新設により地域移行を推進する。
- ・利用者本人、家族等との相談調整にも丁寧に対応し、富士聖ヨハネ学園、東京地区(小金井、清瀬)、実施区市等とも連携調整し地域生活移行を進めた。
- ・法人内では、それぞれの領域の境界に身を置く利用者の状況を踏まえ、地域や事業枠に捉われず地域生活移行を推進しヨハネ学園から5名が地域移行となった。

#### 4) 非正規から正規職員への転換登用の実施

「キャリアアップ計画」 計画期間 26.10.1～H31.9.30

- ・平成26年度において、キャリアアップ計画(計画期間 H26.10.1～H31.9.30)策定し、ハローワーク助成金対象事業としての認定を受けた。  
新規事業所開設や事業再編のため職員の確保は急務の課題であり、これまでも正規化転換は実績のあるところから、名実ともに整え制度化したものである。  
これにより、非正規職員から正規職員への転換登用を図り、職員の意欲、能力を向上させ、事業の生産性を高め、優秀な職員の確保、育成し、サービスの質の向上をめざしたい。  
平成27年2月15日・22日転換登用試験を行い受験者の内合格者1名を H27.4.1 付け正規化雇用を実施した。

## 【平成 26 年度利用状況報告】

2015/3/31						
種別	26年度当初 人数	26年度末 人数	一日平均 利用者数	利用率 (H26年度)	利用率 (H25年度)	備考
小金井聖ヨハネ第1ケアビレッジ	7	7	7	100.0%	100.0%	定員 7人
小金井聖ヨハネ第2ケアビレッジ	7	7	7	100.0%	100.0%	定員 7人
桜町聖ヨハネケアビレッジ	12	14	13	94.0%	79.8%	定員 14人
清瀬聖ヨハネ第1ケアビレッジ	14	14	14	100.0%	100.0%	定員 14人
清瀬聖ヨハネ第2ケアビレッジ	14	13	14	97.5%	100.0%	定員 14人
小金井聖ヨハネワークセンター 就労移行	11	11	8.6	85.6%	79.9%	定員 10人
小金井聖ヨハネワークセンター 就労継続 B型	16	19	15.3	76.7%	57.7%	定員 20人
清瀬聖ヨハネ支援センター 生活介護	18	19	18	89.9%	82.9%	定員 20人
	99	104	96.9			106人

## 【利用者の状況】

2015/3/31											
2014年度	小金井CV-1	小金井CV-2	清瀬CV 1	清瀬1中清戸	清瀬CV 2	清瀬2中清戸	桜CV	小金井WC 移行	小金井WC 継続	清瀬支セ	計
実人数	7	7	7	7	6	7	14	13	20	19	107
平均年齢	46.14	49.57	45.43	40.43	46.17	45.14	53.64	31.85	38.45	47.1	44.4
平均在所期間	11	9.4	7.9	1	9	1	3.4	1.28	1.8	1.43	4.7
男性 人数 (人)	7		7	7			5	9	11	10	56
女性 人数 (人)		7			6	7	9	4	9	9	51
男性 平均年齢	46.14		45.4	40.4			47.3	25.1	33.73	47.89	40.9
女性 平均年齢		49.6			46.2	45.14	52.6	38.6	44.1	46.3	46.1

## 【職員の状況】

2014年度 (H 26)	平成26年3月31日 職員数		年間異動 4/1~3/31				平成27年3月31日 職員数		平成27年4月1日 職員数	
	正職員	非常勤職員・パート	正職員		非常勤職員・パート		正職員	非常勤職員・パート	正職員	非常勤職員・パート
			就任	退任	就任	退任				
生活支援・就労支援員等	16	58	5	1	13	11	20	60	24	62
事務・嘱託等	3	3			1	1	3	3	3	3
計	80		増減 4		増減 2		86		92	

- ・職員の状況は、上記「雇用形態別、年代別構成」「職員の在籍人数・異動状況」の通りである。
- ・職員数は、前年度末 80 名で新年度を迎え、入職者数 19 名、退職者数 13 名で、年度末の職員数は 86 名である。4/1 採用でみると正規職員は、8 名の増員となった。  
梶野町新規事業を見込んで常勤雇用率は 31.4% (6.4%アップ) になり、組織力の強化とサービスの充実・向上を目指す。
- ・特記事項は、新卒正規職員の採用であるが、求人難は免れず採用予定人数を集められなかった。また、求人媒体の新聞折り込みでは若手求職者は呼び込めなかった。
- ・平成 26 年度も引き続きヨハネ学園との連携により人事交流を行い、組織体制強化、利用者の地域生活移行・定着化支援及び移行後の生活安定に役立った。
- ・非正規職員に対して正規化登用試験を実施し、1 名正規転換登用を実施した。また、登用の目的、正規化登用の要件・基準を定めハローワーク助成適用事業認定を受けた。

## 【財務の状況】

- ・収支の状況

平成 26 年度、障害者地域生活支援センター全体の資金収支決算 経常収入計 363,635 千円、経常支出計 320,572 千円、経常活動資金収支差額プラス 33,064 千円の黒字計上である。今期の収支状況については、施設整備事業を推進しつつ多才に我慢強く、しなやかに予算管理を行った結果であると受け止めている。施設整備資金状況は、上記 2-1)の通りである。工事費は人手不足と資材高騰により約 5000 万円の超過となり、設備費におい

て減額の努力をしたが、資金不足は免れず法人本部より借入融資を要した。このような状況下において、リアルタイムで月次の収支を把握して、加算申請、稼働率アップ、補助活用、節約を実行した。

収支面での特徴は、前年度決算対比で支援費収入が約6700万円の増収、(前年決算対比135.6%)であった。その理由は、清瀬支援センターの利用率が増えたことが大きな要因となっている。清瀬地区(グループホーム、支援センター)においてH25.10月に開所した事業が通年ベースとなったことも重なり約5,150万円の増収。また、小金井地区では、グループホーム、ワークセンターの増員、稼働率アップにより1550万円の増収、となった。更に、利用者延べ人数が伸びることにより日中活動系サービス推進事業補助を1,648万円、地域移行定着化支援事業補助金を290万円の助成を受けることができた。

他方、人件費支出も増加し、前年決算対比での人件費増額は5204万円、人件費伸び率は、129.18%であった。経営指標・人件費比率は70.22%、(補正予算時点77%)である。センター全体の人件費支出は、230,400千円(職員俸給、諸手当、非常勤給与、共済掛金、法定福利費の合計)であり、これに対する収入は、328,093千円(自立支援費等収入、補助金収入、その他収入の合計)であった。

人件費においては、利用者の「より安心できる生活、充実したライフスタイル」をめざし、ゆとりある支援が出来るように予算計上したものの、昨今の福祉業界での人手不足の影響から、施設運営基準に定める人員配置基準に沿った必要とされる人員配置をどうにかクリアする状況が精一杯であり、求人採用プランの予算上の配置目標を達成することはできなかった。利用者の幸せと支援を行う職員の幸せとを両立できるような採用人事を行うことが課題である。

なお、清瀬ケアビレッジのスプリンクラー漏水修理工事は行わなかったこと、及び桜町ケアビレッジ・エクセル小金井の賃貸借契約の更新手続きがなされなかったことから決算には計上されていない。

#### ・賞与及び介護職員処遇改善について

賞与は、前年度に引き続いて、賞与4ヶ月(6月期、12月期)を支給した。

福祉・介護職員処遇改善計画は、平成26年度の賃金改善額約530万であり、12月、3月、6月の年3回常勤換算1.0人あたり8.5千円/月×42.5人×12ヶ月分の支給する。

その他、非正規職員の時間給10円アップ、定期昇給、資格取得手当により賃金改善を行っている。賃金以外の処遇改善としては、職員定期健康診断に乳ガン・子宮がん検査をオプション実施した。

### 【施設の運営状況】

#### 1)利用者支援状況(各ケアビレッジ/ワークセンター 特記事項)

##### 小金井居宅支援

##### (小金井聖ヨハネケアビレッジ・桜町聖ヨハネケアビレッジ 第1 第2 第3 第4)

- 今年度は山梨の富士聖ヨハネ学園からの地域移行による利用者1名のメンバー移動があった。同時に小金井ケアビレッジからは自立度の高い利用者が、本人の希望もありアパート型のグループホームへ移動した。生活環境が変化する中、2名とも、移動先での生活を充実させ、日中活動へも通所し楽しく生活されている。グループホームでは、年間を通して利用者話し合いが行われ、利用者の希望する行事が行われた。中でも夏に行われる流しソーメン大会は恒例行事となっている。

第1～第4の様々なグループホームの形態で生活しており、自分なりの生活を送れているが、高齢の利用者も多く、日々の通院が増えてきている。

精神面のケアも含め健康管理や、手厚い支援の必要性を感じている。

##### 小金井通所 (小金井聖ヨハネワークセンター)

- 平成26年度は、4名の一般就労、2名の福祉的就労という実績であった。それに驕ることなく、作業量の確保、就労への意欲を高める、就労実績を出す、定着支援を実施することによりサービスの質の確保を継続実施していく。

- ・第三者評価を受審し、その評価結果に基づく現状分析、改善計画に沿って事業を展開したい。評価分析にもあるように、多機能化、定員増に伴うサービス運営、事業維持については、ともすればサービスの質の低下のリスクを伴うことから、運営規程、契約書、重要事項説明書で定められていることを確実に実行していく。
- ・就労先との関係づくりや関係維持は現場職員の目には触れにくい活動であり、次世代を担う職員に社会と繋がる術を伝授する必要があることから管理者が行っている定着支援や就労支援を順次、現場職員とともに企業を廻り引き継いでいく。
- ・定着支援は、就労が継続して行えるように担当者と密に連絡を取り合い、月1回程度の定着支援訪問を行い、勤務時間や仕事内容を調整するなどを行っている。しかし、時には本人の意向で退職することもあり、ワークセンターを利用しながらの再就職に向けて支援することも少なくない。根気よくあきらめず支援を継続していきたい。

小金井聖ヨハネワークセンターの定員推移 (H21.1～H27.5)

事業所	種別	H21.1 単独	H24.1 多機能	H25.4 多機能	H27.5 多機能
小金井WC	就労移行	20	12	10	-
小金井WC	就労継続B型	-	10	20	20
小金井支セ	就労移行	-	-	-	10
小金井支セ	就労継続B型	-	-	-	20
小計		20	22	30	50

### 清瀬通所 (清瀬聖ヨハネ支援センター)

- ・平成26年10月1日で1周年を迎え、利用者も職員も落ち着いた雰囲気の中で活動が出来るようになってきた。利用者のニーズに合わせて活動の幅も増やしてきたところであるが、さらなるきめ細かい支援を目指していきたい。開所当初、利用者17名で始まったが、26年度末は19名となり、27年度は更に2名入所予定である。今後は、20名の入所定員を超えることから、定員増と清瀬市在住の利用者受入れとの兼ね合いが課題となってくる。

### 清瀬居宅支援

#### (清瀬聖ヨハネ第1 第2 ケアービレッジ 下清戸)

- ・利用者が安心して安全に生活できるよう支援する事を目標に、一人一人に合った支援を考え取り組んできたが、怪我や病気等の介護度が高くなってきており、日々の健康管理や医療との連携の重要性を感じている。
- ・休日には移動支援を利用し各利用者の要望を聞きながら外出等を行っており、週末の楽しみになっている。

#### (清瀬聖ヨハネ第1 第2 ケアービレッジ 中清戸)

- ・山梨の富士聖ヨハネ学園から地域移行し、一年が経過。清瀬市からの入居者も含め、各利用者それぞれの生活リズムも作られ充実した生活を送っている。
- ・移動支援などもスムーズに行えるようになり、個々の生活を楽しめている。
- ・ボランティアとの交流も軌道に乗り、潤いのある生活に繋がっている。

### 相談支援 (ふらっとヨハネ)

指定特定相談支援事業所「ふらっとヨハネ」の開設に向けて地域関係機関の皆様にはご協力を賜わり感謝を申し上げます。先立って9月9日には、小金井聖ヨハネセンターにて「サービス等利用計画案の作成支援に関心のある方、その家族」を対象にして計画相談支援の実際についての概要説明とこれから立ち上がる相談支援事業所の事業説明会を行った。また、小金井聖ヨハネワークセンター・小金井聖ヨハネケアビレッジ・清瀬聖ヨハネ支援センター、清瀬聖ヨハネケアビレッジにおいてもそれぞれの利用者・家族の方を対象にして同上の説明を行った。

10月1日に開所となり「サービス等利用計画の作成」を始めた。手始めはヨハネ会の各、

事業所を利用されている（利用者とその家族）を対象に逐次、家庭訪問して聞き取り面談（アセスメント）を行い、その方の心身の状況、置かれている環境やニーズを踏まえ、本人の意向に合わせた総合的な支援方針や解決すべき課題を考慮し最も適切な福祉サービスを組み合わせた「サービス等利用計画」を作成している。現在、各、事業所に100名以上の利用者が利用しているが40名の利用者の利用計画を作成した。今後は所属利用者全員の作成を行い、小金井市と清瀬市在住の一般利用者を対象にした作成の幅を広げていけるように進めていく。

## 2) 東京都実地指導検査

平成27年1月22日、清瀬聖ヨハネ第1・第2ケアビレッジにおいて東京都指導監査部指導第一課の実地検査が実施された。その結果、「共同生活援助計画の見直しを行っていない」ので是正するように文書指摘がなされた。また、グループホーム居室の家具等の転倒防止措置についても口頭指導があった。センターは、この改善指摘を重く受け止め、直ちに改善を図り、3月9日付けで次の通り改善状況報告書を提出した。この実地指導については、真摯に反省するとともに職員全員の業務遂行義務と責任について意識を改め、サービス管理の業務点検、セルフチェックリストの活用等を徹底しケアマネジメント業務の完遂を目指す。更に、業務を遂行する組織体制についても検討し、ガバナンスの確立に努める。

- 「
- ① 個別支援計画について利用者全員のモニタリングを実施し、モニタリングの結果に基づいて平成26年度の後期個別支援計画の評価を実施し、当該計画の修正・変更について利用者・家族に説明し同意を得たこと。
  - ② 個別支援計画の変更を要する場合は、本人・家族に説明し同意が得られた変更内容を反映した個別支援計画を作成したこと。
  - ③ 今後の方策として、3月18日からの日程で家族面談を行い、再度個別支援計画の支援状況及び評価を報告すること、27年度以降は4月1日及び10月1日を基準日として6月に1回を目途に個別支援計画の見直し等を行うこと。
  - ④ ロッカー、冷蔵庫、居室内の箆笥等の耐震転倒防止器具の取り付け措置を実施したこと。
- 」

## 3) 防災・消防訓練

- ・夜間避難訓練の実施； 小金井ケアビレッジは、6月に消防署立会いのもと夕食後19時30分から実際に利用者全員の夜間避難・消火器消火訓練を行った。
- ・全国で高齢者グループホーム等の火災事故があり、法改正により福祉施設は、新たにスプリンクラー設備や自動火災報知設備などが義務づけされた。小金井聖ヨハネケアビレッジ(桜町、貫井北町1 貫井北町2)は、への自動火災報知設備の設置が必要となっている。また、清瀬聖ヨハネケアビレッジ(中清戸)では、消防署へ通報する火災報知設備と感知器との連動が必要となっている。平成27年4月～平成30年3月までの猶予期間が設けられているが出来るだけ早期の改修が求められている。消防署によるスプリンクラー設置に関する調査も実施されたが、既存施設へ助成金等の支援策が待たれる。

## 4) 労働安全衛生

- ・2014年度は、安全衛生会議、安全衛生委員会を定期的で開催した。活動内容は、職員定期健康診断結果を分析し職員の健康管理に関して職場内の取り組みが話し合われたこと、村田医師(産業医)から「健康管理手引き書」が提供され各職場回覧となったこと、小林院長(嘱託医)提案の「便潜血検査」オプション追加、感染症マニュアルの作成、配備、安全衛生講習会報告などである。活動開始の初年度として、職場内の労働安全衛生について話し合う場が設けられ、健康で働くためにみんなで取り組み改善していく道筋、職員の意識化が図られたことが何よりの成果であった。
- ・労働災害事故の報告はなかった。私傷病による傷病手当金の申請は2件であり、入院治療後の職場復帰者1名、入院治療後の自宅療養中1名であった。  
なお、産業医からも病気の時は、早目に受診し治療を開始するよう助言があった。

## 5) リスクマネジメント（事故・虐待防止・苦情対応）

下記の通り、事故・苦情・要望が発生し、対応と業務改善を行った。

### (1)障害者虐待防止法第16条に基づく通報連絡

- ・「弟さんが一生懸命働いたお金なので大切に使ってください」とお願いしたと本人の「いつも無駄遣いはしていない」との思いから不満が生じ本人が、対応した職員の頬を平手で殴ったため職員も咄嗟に平手で打ち返してしまったのもである。センターは、虐待被疑事案として通報義務の規定に従って小金井市、北区(実施機関)、東京都に通報した。
- ・後日、北区担当者2名による立ち入り調査があり、今回の事案は、継続性も陰湿性も否定され虐待に当たらないとの見解が得られた。
- ・センターは、①本人及び職員の状況確認、保護者への説明と謝罪、②虐待防止委員会を開催(状況把握、原因解明、対応・再発防止策を決定・実施)、③職員に対する虐待防止策の周知徹底 ④職員会議において虐待研修会を実施した。
- ・平成27年度事業計画にも重点項目として虐待防止の取組みを明記した。利用者の権利擁護、人格の尊重、サービスの質の向上を再確認するとともに再発防止に施設全体として取り組んで行かなければならない。

### (2)公用車輛事故

職員の不注意、運転技術未熟による車輛自損事故が増えている。公用車で発生した車輛事故の状況、原因報告を行い、注意喚起、危険箇所のチェック、事故情報の共有、事故の抑制に努めている。公用リース車の場合もあり、迅速・合法、適切な事故対応と運転技術指導・習熟を目指す。

### (3)苦情及び要望

- ・「利用料の引き落としの手続きを無料に出来ないのか。地方銀行は手数料が高い、毎月のことなので検討して欲しい」。集金代行サービス等を検討。  
苦情報告は1件であったが、生活面で改良の提案、気が付いたことなど意見、要望にも耳を傾けて対応している。
- ・入所利用開始や個別支援計画書(中間見直し)の見直しの機会にご家族から利用者サービス等に関して要望があった。ご家族と面談して要望を聞き取り改善に努めた。
- ・「支援体制の構築」と「サービス向上」への取組みに対する要望については、背景にある積み重なった日常生活の具体的なサービスを洗い直して改善に努めている。
- ・平成27年度において、業務改善委員会や第三者委員会を開設して協議するなど組織的な対応としても苦情・要望に応えられるようサービスの質の向上を図る。

## 6) 実習生・ボランティア活動・見学受け入れ・市民対応など

- ・ボランティアの皆さんを組織的に受け入れるべくボランティア活動の手引き書を作成し、職員側もボランティア担当を置くなど組織的にも受け入れ態勢を整えた。
- ・清瀬地区においては、演奏会、利用者の活動補助、花壇づくり、掃除など様々な活動が展開できるようになった。更にボランティア活動を支援し協働していきたい。
- ・社会福祉専門学校から実習生を受け入れ、学生、職員双方にとっての学びと成長の機会となることをめざしたが、実習目標の設定段階でのボタンの掛け違い、学生の空回りも見られた。
- ・施設見学は、地域住民、家族、関係機関から見学の要望が多々あり、応対の許す限り受け入れを行っている。手軽な窓口案内資料を作り分かり易く紹介したい。

## 7) その他

東社協部会活動、市部自立支援協議会などの活動

- ・清瀬市、小金井市に、自立支援協議会委員を派遣し、地域支援、地域における施策協議、連携などに努めている。
- ・地域活動によって得られる感性、施策動向の把握なども我々の配分効率を高め、地域のサービスの質が向上することにつながるものと期待している。
- ・今後とも地域での連携の輪を広げていきたい。

## 【職員研修】

平成26年度研修委員会を立ち上げ、障害者地域生活支援センター所管の全事業所における職員の質の向上を目指して、組織的に取り組むことになった。26年度は主として研修のあり方等を検討した。実質的には平成27年度から職員研修計画を作成して、研修を実施していく予定である。

2014年度 研修計画および研修実施記録表										
2014	研修会名	申請中・予定・終了	日時	主催・会場	参加者氏名	起案決裁	受講料	研修報告書 チェック	交通費精算	備考・点検チェック
4月	平成26年度新規入職者研修		2014/4/1	本部館	駒井 寺田 新屋 吉賀 石山 平田					
	パン工房研修 (4月) 継続研修		週1回 木曜日	有限会社 びーぶる	小林 学					
5月	東京都知的障害者生活サポート協会講演会		5/19	国分寺労政会館	石山真里子					
	平成26年度 東京都障害者グループホームに係る説明会		5/30	都庁	三浦					
	パン工房研修 (5月) 継続研修			有限会社 びーぶる	小林 学					
6月	パティスリー&ブーランジェリージャパン2014 機器視察		6/19	国際展示場	小林 学					
	東社協利用者支援研究会研修 「今更聞けないシリーズ 第3弾 医療の基礎知識」			飯田橋	柳澤 しのぶ					
	東社協利用者支援研究会研修 「事務職員向け マナー研修」		6/28	飯田橋	新屋 悟					
	東社協利用者支援研究会研修 「摂食 嚥下 ソフト食 について」			飯田橋	平田 祐未					
7月	平成26年度 知的障害者グループホーム等 世話人養成研修 (新任職員対象)		7/28	飯田橋 英語センタービル	駒井 菜々恵					
	パン工房研修 (7月) 継続研修			有限会社 びーぶる	小林 学					
9月	東社協利用者支援研究会研修 (介護技術基礎知識)		9/27	飯田橋 英語センタービル	新屋 悟					
10月	平成26年度 食品衛生実務講習会 A		10/9	東京都多摩小平保健所	小林 学					
	第3回 全国生産活動、就労支援部会職員研修会		2014/10/6-7	日比谷公会堂	三浦和行 勝見正					
	東社協利用者支援研究会研修 (自閉症スペクトラム障害の理解)		10/25	飯田橋 英語センタービル	平田 祐未					
11月	知的発達障害部会 利用者支援研究会 平成26年度第10回学習会		11/6	あだちの里 高田馬場	松岡雪乃 金子和地備					
	平成26年度第二回研修会 「アンダーマネジメントを学ぶ」		11/28	NPO発達障害支援協会 国分寺労政会館	新屋悟 井上信彦					
	平成26年度第二回研修会 「アンダーマネジメントを学ぶ」		11/28	NPO発達障害支援協会 国分寺労政会館	星野義幸					
12月	第22回職業リハビリテーション研究発表会		2014/12/1-12/2	東京ビックサイト	吉賀 大樹					
	平成26年度東京都障害者虐待防止・権利擁護 従事者コース		2014/11/26.12/9	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	駒井菜々恵					
	平成26年度東京都自立支援協議会セミナー		12/5	都庁第一庁舎5階大会場	川副 敬二					
1月	平成26年度障害者就労支援体制レベルアップ 事業 (中堅職員向け研修)		1/14.1/19	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	高本明子					
	NPO法人東京都発達障害支援協会 第三回 研修会		2015/1/16	滝野川学園	川副 敬二					
2月	平成26年度障害者就労支援体制レベルアップ 研修(中堅職員向け)		2015/1/14.19	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	高本 明子					
	東社協利用者支援研究会研修 『精神障害』		2015/2/15	飯田橋 センブラザ	松下郷子 大場美歩					
	平成26年度全国経営協 障害者福祉事業経営セミナー		2月19日	品川フロントビル	三浦和行					
3月	平成26年度指定障害福祉サービス事業者集団指導		2015/3/3	東京障害者職業センター 都研修センター(茗荷谷)	三浦和行 田中公彦					

## 2. 高齢福祉部門

### 【 総 括 】

2014年3月の理事会評議員会で、高齢福祉部門の財務状況悪化が取り上げられ、早急の財務改善が必要とされた。4月、法人本部から事務局長を加えて、経営層と主任・副主任を中心にホームとセンターにそれぞれ財務改善プロジェクトチームを立ち上げ、隔週毎に財務改善会議を実施し進められて行った。

財務改善の柱は、ホーム、センターとも主に二点で、1) 利用率を上限まで上げる増収策 2) 経費見直しによる支出削減策であった。まずは、各サービスの財務状況の現状把握から始め、各サービスの課題を取り上げ、利用率向上に向けて具体的な課題解決の取り組みを行った。

ホームでは、待機者リストのデータベースの改善・入所前面接の改善・空床ベット等の有効利用などで入所の促進を大きく進め、センターでは、デイサービスの祝日営業を中心に、入浴ニーズへの対応・ケアマネ部門等との連携・積極的な営業活動・キャンセル時のスポット利用等により利用率向上に努めた。年度の前半は、目標利用率に達成することが難しかったが、後半、各部署の全面的な協力のもと具体策が進み財務改善の道が拓けてきた状況にある。支出の内、最も大きな人件費については、適正な配置と人件費率を目指してすべての部門で見直しを始めている。

しかしながら、2014年度内での早期の財務改善は難しく2015年度からの財務改善三か年計画で三施設全体の黒字化と財務改善を図ることとなる。この為、高齢福祉部門では、2015年2月16日、2月17日、2月20日に、三施設合同の職員全体労務説明会を開催し厳しい財務状況を説明し、賞与・特別休暇の見直し等を含めた財務改善計画へ協力を求め次年度に継続している。

財務改善に必死に取り組んだ1年であったが、実際に赤字となった過去4年に直接原因があったというより、赤字体質の起因は、措置費時代の組織運営が残り、全てトップが判断し決定するという形から脱却できず、経営・財務改善を職員と共有し抜本的に実施できなかったことにあると考え、財務改善と並行して組織強化・組織改編について下半期から検討を始めた。

組織強化の為、ワントップ型の主任制からヒエラルキー（階層）型の統括施設長を中心とした部課長制へ新しく組織改編を行う方針を固め組織規程策定など、2015年1月～3月までをその準備期間とし、2015年度からのスタートを目指した。同時に、財務改善プロジェクト会議の働きと役割りも、それぞれ会議体の機能を明確にした新しいホーム運営会議、センター運営会議、高齢福祉部門経営会議に移行した。

次年度が介護保険改正と介護報酬改定であることから、改正の大きな方針である『地域包括ケアシステム』について情報を集めるとともに法人内でも桜町病院との管理者連絡会において、地域連携室・ケアマネ・地域包括センター・訪問看護ステーション等の連携状況やサービスの共有、諸課題について意見交換を行った。介護報酬については、マイナス改定が確実であることから介護報酬に直接反映される地域区分の改善が重要と捉え、つきみの園特養施設長と合同で小金井市に要望書を提出した。また東京都社会福祉協議会高齢福祉施設部会と連携し武蔵野・府中・小金井の特養施設長とで国会議員陳情にも協力参加した。（2015年介護報酬：小金井市の地域区分は4級地から3級地へ上がった）その他、三施設で介護保険改正に伴う各種加算の申請など届出を実施した。



# I 桜町聖ヨハネホーム

(指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

## 【平成 26 年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(H26度)	利用率(H25度)	利用率(H24度)
介護老人福祉施設	106名	97.5名	92.0%	87.2%	87.6%
短期入所生活介護	8名	7.6名	94.5%	94.1%	100.5%

※定員 106 名の内、3 床：看取り室・緊急ショート室・感染症等緊急室

平均年齢 87.45 歳（最高 106 歳、最低 61 歳）

男女比率 16：87（2015 年 3 月 31 日現在：103 名）

平均在所期間 3 年 6 ヶ月（最長 14 年 11 ヶ月）

年間入所 34 名（2013 年度入所：27 名・2012 年度入所：24 名・2011 年度入所：13 名）

年間退所 26 名（2013 年度退所：28 名・2012 年度退所：21 名・2011 年度退所：23 名）

## 【職 員】

	平成 26 年 4 月 1 日の職員数			年間退任・就任						平成 27 年 3 月 31 日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
顧問(特任施設長)	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
施設長	1 (1)	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	1 (1)	0	1 (1)
医 師	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2
生活相談員	2	1	3	0	1	1	0	1	1	1	2	3
介護支援専門員	(3)	0	(3)	0	0	0	0	0	0	(3)	0	(3)
介護員	28 (3)	17	45 (3)	2	2	4	3	6	5	28 (3)	18	46 (3)
看護師	6	2	8	0	1	0	0	0	1	5	2	7
機能訓練指導員等	1	3	4	0	0	1	1	0	0	1	3	4
管理栄養士	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2
調理員	4	8	12	0	0	3	3	3	3	4	8	12
事務員等	3	1	4	0	0	3	0	3	0	3	4	7
生活サポート	0	15	15	0	0	3	4	3	4	0	14	14
施設整備員	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合 計	46 (4)	52	98 (4)	2	4	15	11	16	14	44 (4)	56	100 (4)

※上記表の他に管理宿直員等 4 名

※介護派遣職員 平成 27 年 3 月 31 日現在 夜勤専従員介護員 1 名

## 【施設運営状況】

### 1. 財務改善プロジェクト会議について

今年度は、先に記したとおり財務改善のためのプロジェクト会議を立ち上げ、そこで財務を改善するため、各部内の改善・部間の連携協力をどの様にすれば良いのかの話し合いを実施した。発足当初はどのように進めれば良いのか暗中模索の感があったが、財務改善の課題を整理し、入所の促進・空床の有効利用・入所以外の増収を図る・支出の削減の4点に分けてその中でさらに対応策を出して主な責任部署を明記し、そこが中心となって改善取り組み内容の実施を行った。

入所の促進に関してはそれぞれの部署が連携をして改善が図られていった。また、空床の有効利用に関しては生活相談部が中心となり新たに入所見学説明会も開催し、空床利用に資する利用者の発掘にも力を入れた。

入所以外の増収と支出の削減に関しては、事務部が中心となり、各種加算の提案や経費の見直し、利用者からの実費徴収の見直しなどを実施した。経費の見直しでは、ユニフォーム・マットリース・清掃用品、書籍等で実施した。また消耗品の在庫管理を進めて効果があらわれている。

また支出の削減に関しては、これまで入所促進に重点を置いていたが、収益面から見ると在園数の維持・確保も重要であることから、入院者を出さないように医務部が中心となり介護部と連携し入院者の分析を実施して対応策を練った。一定の努力と効果があったが、継続的で予防的な実施段階まで各部に浸透するまでには至らなかった。

財務改善プロジェクト会議の始まった2014年4月度は入所1日平均の延べ実績人数は92名と2014年度最低であった。本格的に財務改善プロジェクトの実施が始まった5月以降は徐々に入所1日平均の延べ実績人数を伸ばしていった。しかし、入所102名平均の高利用率の目標には遠く及ばず、2014年度1日入所平均97.5人の実績となった。

ショートステイサービスに関しては、10月に担当の常勤相談員が退職し、生活相談部に当面の新任担当者を立てたが、新規利用者の面談などが滞り、またショートステイサービスの利用者の入所も進んだこともあり年間1日利用平均は7.6名（目標7.7名）の実績となった。1月より順次、新規利用者の受け入れも進めた。引き続き2015年度は、体制を整え各係との連携をもとに利用率向上を進める。

### 2. 入退所の動き

今年度は財務改善のプロジェクト会議の実施によりスムーズな入所がなされ、月平均3名程度、多い月で5名の入所を実施し入所者総数は、34名であった。入所前の所在内訳は、在宅から直接入所が11名で、老健・病院等の施設からの入所が23名であった。法人内連携である桜町病院からの入所も在宅復帰が困難な事例を中心に3名の実績を上げた。

退所は、退所者総数26名であった。ホームでの看取介護等で亡くなった方が18名で退所者の分類では最も多く、長期入院・医療機関への退所者は4名、入院先で亡くなった方は、4名となっている。2014年度は、このようにホーム定員の約1/3の入れ替わりがあった。

毎月退所者より新規入所者が上回る努力をしており、2014年度は、8名の増で結果的に年度末には、常時利用できるベット数の103名まで入所を回復している。

ショートステイに関しては、担当相談員の退職により滞りなくショートステイ事業を進めることに終始し、下半期は、新規利用者の利用が進まなかった。2015年度は、体制を整え新規利用者の開拓と継続利用、キャンセル対応や入院空床の利用がスムーズにいくようなシステムの構築を行う。

### 3. 財務状況について

今期より財務改善プロジェクトを進め財務状況は、全般的に回復傾向にあるが、短期での財務改善の黒字化は難しく今期は、事業活動収支決算で▲1990万円の赤字（前期▲4130万円）。資金収支決算で▲173万円の赤字（前期▲1950万円）となっている。要因は総括や入所の概要で取り上げているが、まずは年間目標の入所102名に届かなかったことが挙げられる。概算では、入所1名1日1万円で年間365万と積算されるので、平均入所数97.5名で目標には4.5名足りず、単純計算であるが、1640万減収であったと考えられ、資金収支決算赤字の大きな原因である。

前年度比では、介護保険収入が、790万円増、利用者負担金収入も246万増で収入増となっている。支出については、人件費が、前年度比910万円減で人件費率の適正化を進めているが、事業活動収支での人件費率は依然高く今期が75.18%（前期78.11%）である。

また今期の減価償却費は、2770万円が計上（前期3160万円）され、これをカバーできる財務状況にはまだ至っていない。引き続き2015年度からの財務改善三カ年計画で黒字化を目指す。

#### 【利用者支援状況】

##### 1. リスクマネジメント

今年度は、介護事故予防対策会議の中で、夜間救急車要請時に救急隊員の求めに応じた的確な情報提供が出来る様に個人ファイルを整理した。また、誤配薬、未内服時の報告・連絡・相談の周知の実施をどの様に定着させるかの検討を実施した。課題として残ったものとして、エレベーターへ利用者が一人で乗り込んでしまうなどのヒヤリハットが挙げられる。これは具体的に有効な対策を引き続き他施設の情報を集めて対応する。

介護部の園内研修として、今年度は『緊急時の対応と連絡方法』『薬剤・ヒューマンエラー』『急変時・緊急時の対応』を実施した。

苦情については苦情対応委員会にて、一つ一つの個別の事例について細かく取り上げて、その報告と対応策について検討した。2015年度はこれまでの苦情対応にとどまらず、より積極的に業務とサービスを改善するために、ホーム・センター合同でサービス業務向上委員会として再編される。

##### 2. 感染症対策

食中毒とノロウイルス、インフルエンザについて、感染流行時期前に感染症対策委員会が中心となり全職員対象に講義と実際の嘔吐の場合の処理の方法をデモンストレーションし周知を図った。

また今年度『粟粒結核』と診断された利用者が出たが、桜町病院の感染対策医により保健所の届け出をしてもらい家族及びホームの濃厚接触者に対して、迅速かつ確かな指示を頂きそれぞれ経過観察により新たな発症者なく終息した。

10月からは感染症流行時期ととらえ具体的な対応として嘔吐の利用者に関してはノロウイルス対応として48時間隔離対応を開始した。また地下のトイレは年間を通じて栄養部専用として外部から栄養部にウィルスの侵入を防ぐようにした。家族及び体調不良者に関しては別にトイレを指定設置して消毒の徹底の実施を行った。過去に退院してきた利用者がノロウイルスに罹患しホームで感染が蔓延してしまったことへの反省をもとに、利用者が病院から退院した時には、可能な限り48時間の個室隔離対応で様子観察を実施したのち自室に戻っていただく対応とした。春先と冬場に風邪の流行があったが、その都度に緊急感染症対策会議を開き、情報の共有と各部署

統一した動きが出来る様になり、感染の蔓延や入院増加になる事態は避けられた。同様に先に述べた結核の利用者が出た時も速やかに緊急対策会議を開き情報共有と正しい知識の周知が出来、統一した行動をとることが出来た。

### 3. サービスへの取り組み

(ア) 利用者が『大切にされていると思えるケア』の実践について

- 生活相談部では特に終末期に家族の意向を丁寧に伺い、可能な限り尊重したかかわりの実践が出来た。家族にいない、また関わりの少ない利用者に関しては生活相談員が積極的にかかわり金銭管理も公的機関につながるようにし、利用者の利益に繋げるため後見受任者とも良好な関係を保つようにした。入所までの一連の手続き過程に関しても精神面のサポートや受診援助などを十分に説明し家族の役割の理解を得られるようにした。
- 介護部では先に述べた感染症の研修や新入職員への育成プログラムを徹底し、丁寧な教育を実践して利用者のケアにあたる事が出来た。また、利用者の人となりを理解して利用者のペースに合わせたケアの大切さは部の方針だけでなく利用者からも日々のかかわりの中で教えられている。
- 看取り介護に関しては各部署、医師の丁寧な面談によりご家族が利用者にとってどのようにすることが一番良いのかを考えられるように、最後の時まで共に伴走するようにケアの実施が出来た。
- エンゼルケアに関してもこちらが出来る限りのケアの実践が出来た。  
エンゼルケアの体制については、長くシスター方の直接的な支援により支えられてきたが、下半期よりホーム職員で対応できるよう準備に入った。また少数の職員に負担がかかることの無いように複数の職員が交代で対応できるように体制を整え始めている。
- 機能訓練部ではご利用者それぞれに適した福祉用具の提案を家族にすることが出来た。  
また、屋上において園芸療法の一環として利用者に種や苗を植えてもらい、出来た作物を利用者が収穫してその場で食したり、日々の食事に栄養部が調理して利用者が食することが出来て収穫の喜びを味わい手や体を動かす事。ひいては脳の活性化の一助になったと思われる。
- 栄養部では、家族会やボランティア懇談会などで新しい調理法を紹介し、見た目にも嚙下にも良い“凍結含浸法”で調理した食事の提供をすることができた。  
刻んだり、混ぜてしまう為に、もともと何の食材かが分からない状態でしか召し上げられなかった利用者に対して、美味しく召し上がっていただく取り組みの実践をし効果をあげられた。

(イ) 緊急ショートステイの受け入れについて

利用者数は男性 6 名。女性 2 名の計 8 名。延べ利用日数は 54 日であった。前年度実績 8 名。延べ利用日数 48 日と、ほぼ変わらない実績状況である。

利用内容は主な介護者の急病、急死、介護者からの虐待等があげられる。

在宅での老老介護の実態が汲み取れ今後もこのようなケースは後を絶たないと思われる。

緊急ショートステイの受け入れ施設としては情報が少ないところでの受入れとなるので、充分な準備など出来ず心配な点はあるが、地域住民にとって必要な役割であると認識し、今まで通り迅速に対応を継続していく。

## 〔Ⅰ〕 入所ご利用者のADL状況について

※ADL状況について&lt;2015年3月31日現在・単位(人)・71名調査&gt;

種類 \ 区分	介助されていない	見守り	一部介助	全介助
食 事 (構成比 %)	13 (18.3)	34 (47.9)	15 (21.1)	9 (12.7)
衣服着脱・上着 (構成比 %)	9 (12.9)	6 (8.6)	38 (54.3)	17 (24.3)
衣服着脱・ズボン (構成比 %)	6 (8.5)	4 (5.6)	6 (8.5)	55 (77.5)
排泄・排尿 (構成比 %)	7 (9.9)	4 (5.6)	22 (31.0)	38 (53.5)
排泄・排便 (構成比 %)	6 (8.5)	4 (5.6)	22 (31.0)	39 (54.9)
洗 身 (構成比 %)	0 (0.0)	0 (0.0)	21 (29.6)	50 (70.4)
起 床 (構成比 %)	0 (0.0)	5 (7.0)	35 (49.3)	31 (43.7)
寝 返 り (構成比 %)	5 (9.5)	0 (0.0)	43 (60.6)	23 (32.4)
立ち上がり (構成比 %)	4 (5.6)	0 (0.0)	35 (49.3)	32 (45.1)
歩 行 (構成比 %)	8 (11.3)	0 (0.0)	14 (19.7)	49 (69.0)

## 〔Ⅱ〕 入所ご利用者の要介護度の状況について (前年年度末:比)

	《2015.3.31 現在》		《2014.3.31 現在》		前年比増減
	男 性	女 性	男 性	女 性	
要介護1	0名	4名	0名	1名	0名
要介護2	3名	7名	1名	3名	+2名
要介護3	3名	19名	4名	19名	-1名
要介護4	5名	35名	9名	37名	-4名
要介護5	8名	18名	4名	20名	+4名
合 計	19名	83名	18名	80名	+1名
	《2015.3.31 現在》		《2014.3.31 現在》		
	男 性	女 性	男 性	女 性	前年比増減
要介護1	0名	4名	0名	1名	+3名
要介護2	3名	7名	1名	3名	+4名
要介護3	3名	19名	4名	19名	0名
要介護4	5名	35名	9名	37名	-2名
要介護5	8名	18名	4名	20名	-2名
合 計	19名	83名	18名	80名	+3名

## 【施設整備状況】

ライフライン関連の修繕費対応が近年続いている。

創立 28 年を経過し、施設・機械設備の全般に修繕費が増加しており、今期は、修繕費で 593 万円を計上した。(前期 423 万円) 主に、冷暖房機械・ボイラー・配水管などが老朽化し、緊急的な工事が多くなってきている。施設整備担当者と迅速に対応した。地上部分やフロアでの漏水は目視でき早急に緊急工事をするのが可能だが、広いホーム敷地内での地下部分の漏水などは発生の把握に時間がかかる。これら地下などの見えない箇所の配水管・給湯管の老朽化による漏水は、高額な水道料金や重油料金(ボイラーの過剰燃焼の原因)に反映されるので、重点的に巡回を実施し改善の傾向にある。また夏場には、チラー本体周辺に漏電等が発生し、冷房と給水ポンプ系電源が急に停電して修理対応に追われた。チラー本体は高額であるが、全室に単独空調機器設置はより高額であるために調査を実施し 2015 年度にはチラー本体の交換を目指す。

その他、各居室の洗面コーナーの温水サーモが不良になり、担当者レベルの調整で対応していたが、冬場に全面的な不良となり、集中的に緊急取替工事 126 万円を実施した。

### 1. 主な固定資産取得

● 7/31	2階アコーディオン式転落防止扉	133,326 円
● 9/30	真空包装器(マルゼン)	432,000 円
● 9/30	電気温水器(オズプランニング)	155,520 円
● 10/31	低床ベット(日本エンゼル)	300,240 円

### 2. 主な無形固定資産取得

● 10/15	新会計ソフト追加分(内田洋行)	178,200 円
---------	-----------------	-----------

### 3. 主な修繕支出

● 4/30	雪害時の記録室ガラス屋根・外倉庫撤去	101,750 円
● 4/30	地下ピット内漏水工事	151,200 円
● 4/30	厨房地下ピット内配管交換:緊急工事	291,600 円
● 5/31	チラーサーモ機器交換工事	132,840 円
● 7/31	地下冷房室漏電ブレーカー	139,050 円
● 7/31	火災自動通報装置交換(セコム)工事	299,160 円
● 9/30	ボイラー部品交換	91,800 円
● 10/31	冷房チラーユニット修理	216,000 円
● 10/31	入浴ストレッチャーギア修理	123,098 円
● 10/31	スプリンクラー修理	172,800 円
● 11/30	地下厨房床面防滑工事(転倒防止対策)	313,200 円
● 12/31	ラインポンプ取替	243,000 円
● 1/30	生ごみ処理機:修理	410,400 円
● 1/31	各居室洗面の温水サーモ取替工事	1,260,900 円
● 2/28	地下厨房内ガス管バーナー交換	105,408 円
● 2/28	入浴ロベリア部品交換修理	135,150 円

【教育研修】

2014年度 桜町聖ヨハネホーム 研修参加一覧表

NO	研修名	主催	場所	期間	参加者
1	平成26年度東京都認知症介護実践者研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	4/10、11	尾花 綾子
2	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修	NPO法人 東京都介護福祉士会	ティアラことう 大会議室	4/22、24、5/8、13	俵木
3	平成26年度 初任者研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センター	5/20・21、6/11・12、18・19	尾花、及川、柴田
4	ショートステイにおけるリスクマネジメント対応と稼働率向上の実践	日総研	フォーラムミカサ エコ	6/22	三ヶ部
5	「新会計基準に関する研修会」	東京都社会福祉協議会	家の光会館	6/26	廣瀬
6	平成26年度特別養護老人ホーム経営支援補助金事務説明会	東京都	東京都社会福祉保健医療研修センター	6/27	谷村
7	「災害時における食事提供」経験から見たもの	東京都社会福祉協議会	新宿NSビル	7/1	井口
8	平成26年度 中堅職員研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健医療研修センターほか	7/7・8、15・16	山口、花嶋
9	平成26年度栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	多摩府中保健所	7/11	岩崎
10	ニチワ夏季医療福祉&介護食・ソリューションセミナー	ニチワ	ニチワ電機株	7/15	西河
11	「機能訓練指導員のための情報交換会」	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	7/25	細谷
12	平成26年度「介護支援専門員実務研修試験対策講座」	東京都社会福祉協議会	日本教育会館	8/23	小野
13	色カルタ・クオリアゲーム	日総研	日総研 研修室	9/9	関谷
14	高齢者福祉施設における結核対策	東京都福祉保健局	四谷区民ホール	9/19	増田
15	福祉用具サービス業務従事者講習会	公益財団法人 東京都福祉保健財団	小田急第一生命ビル	9/25	細谷
16	「介護報酬請求事務に関する研修会(応用編)」	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	10/27	中條・谷村
17	平成26年度栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	多摩府中保健所	11/14・12/10・1/21	井口・朴
18	看取りのケア～職種間の連携と看護職の役割	東京都社会福祉協議会	新宿エステック情報ビル	11/19	青木
19	ボランティア・コーディネーター研究協議会	東京ボランティア・市民活動センター	飯田橋セントラルプラザ	11/28	中條
20	平成26年度介護福祉士国家試験対策講座	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ12階	12/6,7	山口
21	平成26年度東京都高齢者権利擁護推進事業「施設内リーダー職員研修(看護実務者研修)」	東京都福祉保健財団	小田急第一生命ビル	12/16	浅見
22	平成26年度 施設長研修会	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	1/15	藤井
23	社会福祉施設における労務管理と安全衛生管理に係る講習会	立川労働基準監督署	立川地方合同庁舎	1/22	藤井
24	事例から学ぶ生活相談員の事故対応part2～なぜ事故が大きなトラブルに発展するのか～	東京都社会福祉協議会	日本青年館ホテル	2/6	遠藤
25	人員・時間を増やさない業務生産性の向上	全国社会福祉協議会 青年会	新霞が関ビル	2/16、17	芦澤
26	厨房設備機器展	HCJ三展合同事務所	東京ビッグサイト	2/18	坂本
27	高齢者の栄養ケア・マネジメント	日本健康・栄養システム学会	昭和女子大学	2/28	井口
28	介護保険制度改正について～概要と施設運営への影響	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	3/2	藤井
29	復元納棺師が教える！看護・介護職が行うエンゼルケア・死化粧	日総研出版	レン貸会議室「飯田橋」	3/7	橋本
30	箱根駅伝優勝校監督に学ぶ！チーム(職場)を強くする管理者のあり方について	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル	3/12	芦澤、及川

## Ⅱ 桜町高齢者在宅サービスセンター

(通所介護・訪問看護・居宅介護支援・訪問入浴介護・小金井市委託事業)

小金井きた地域包括支援センター (小金井市委託事業・介護予防支援)

グリーンタウン小金井高齢者住宅 (小金井市委託事業)

### 【平成 26 年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間 延定員	延べ利用 者数	1日平均 利用者	利用率 (H26年)	利用率 (H25年)	利用率 (H24年)
介護保険事業	通所介護(一般)	30	9,030	8,359	27.3	92.6%	88.2%	89.8%
	通所介護(認知)	24	7,224	5,116	16.7	70.8%	63.8%	68.7%
	訪問介護	120/週	5,860	5,394	17.6	92.0%		
	訪問入浴	5.5	1,683	1,639	5.37	97.3%		
	居宅介護支援	155/月	1,860	1,807	150.6/月	97.2%		
栄養事業	給食	41	12,341	11,766	39.1	95.3%		
	配食サービス	62	18,228	16,896	57.5	92.7%	83.9%	
小金井市 委託事業	特定コース	15	673	519	13.6	77.1%	78.0%	49.0%
	一般コース	15	665	550	13.5	82.7%	76.0%	61.6%
	やすらぎ支援	※106日 実施 実利用者 7名 延利用者打合回数 4回						

#### ● 利用者の動向

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

##### ① 一般型通所介護

2013年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	1,039	427	2,602	1,793	975	718	202	7,756
割合	13.4%	5.5%	33.5%	23.1%	12.6%	9.3%	2.6%	100.0%
2014年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	1,046	589	2,872	1,557	1,153	999	143	8,359
割合	12.5%	7.0%	34.4%	18.6%	13.8%	12.0%	1.7%	100.0%

##### ② 認知症対応型通所介護

2013年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	1	0	867	1,589	944	351	753	4,505
割合	0.0%	0.0%	19.2%	35.3%	21.0%	7.8%	16.7%	100.0%
2014年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	780	2,121	1,228	462	531	5,122
割合	0.0%	0.0%	16.3%	36.2%	23.1%	7.9%	16.5%	100.0%



## 【職員】

	平成 26 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						平成 26 年 3 月 31 日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正職員	非常勤職員	合計
センター長	(1)名		(1)名	1	(1)			1	(1)	1名		1名
事務長	0名		0名					0	0			0名
介護員	3名	14名	17名		1		2	0	3	2名	12名	14名
生活相談員	9名		9名	2	2	1		3	2	9名	1名	10名
看護師	1名	6名	7名			1	1	1	1	1名	6名	7名
介護支援専門員	3名	2名	5名	1			1	1	1	4名	1名	5名
訪問介護員	1名	12名	13名					0	0	1名	12名	13名
運転員		4名	4名			1	1	1	1		4名	4名
栄養士	2名		2名					0	0	2名		2名
調理・調理補助		7名	7名			1	3	1	3		5名	5名
理学・作業療法士		2名	2名					0	0		2名	2名
事務員		3名	3名					0	0		3名	3名
高齢住宅管理人		9名	9名			1	2	1	2		10名	10名
清掃員他(洗浄員)		5名	5名			1	3	1	3		3名	3名
合計	20名	65名	84名	4	3	6	13	9	16	20名	59名	79名

## 【施設運営状況】

### 桜町高齢者在宅サービスセンター財務改善の取り組み（地域包括支援センター・高齢者住宅管理含）

桜町高齢者在宅サービスセンターは、2014年度は1620万円にも及ぶ経常資金収支差額の赤字状態を改善するべく、財務改善を最重要取組事項として事業運営に取り組んだ。

4月に法人本部主導のもと財務改善プロジェクトを発足し、法人事務局長、園長、センター長各事業の主任・副主任が集まり、どの様に取り組めば各事業の実績（利用率・収入）が向上するか月2回の会議で検討を重ねた。

各事業の実績が低迷する問題を洗い出し、問題点を改善する為の実行内容・方法をルール化して、各事業がそのルールに則り共通の約束事として実績向上の為に行動することとした。会議では定期的にモニタリング（状況確認・ルール、方法の見直し・評価）を行った。

その効果はすぐには数字として表れなかったが、別表に示す通り徐々に表れ始め下半期からは、うなぎ上りの実績を残すことが出来た。

通所介護事業では2014年度から年間7日の祝日営業を開始し、時間外延長サービスも実施し収益向上に努め、また残業に関しては、月毎に計画的に取得することを約束事として残業代支出の軽減に取り組み、事務費等の経費に関しても職員一体となって節約を行った結果、桜町センター全体で2014年度の経常資金収支差額は469万円の黒字（地域包括支援センター・高齢者住宅管理含む）、事業活動収支差額は▲301万円の赤字（地域包括支援センター・高齢者住宅管理含む）という結果で、大幅な財務改善を達成することが出来た。

## 【利用者支援状況】

### (1) リスクマネジメント

#### ● 介護事故

通所介護事業で8月に2件の転倒事故があった。1件目は閉まりかかったエレベーターの扉にぶつかり転倒された事故、2件目は入浴中洗い台に頭をぶつけ転倒された事故である。いずれもすぐに関係機関に報告・連絡、病院受診し検査結果は問題なく大事には至らなかった。平成26年度は上記以外に介護事故は起きていない。

車輛事故に関しては、自車輛を傷付けてしまうものが何件かあった他、他車輛と接触事故が1件あり保険会社にて処理。人身事故は起きていない。

#### ● ヒヤリハット

通所介護事業では、平成26年度も年間を通してヒヤリハット事例を記入し、ミーティング内で事例の共有・改善策を話し合ってきた。平成26年度に事例として挙げられたヒヤリハットの分類と件数は下記の通りである。

送迎（73件）、排泄（5件）、転倒（21件）、移動（5件）、異食（3件）入浴（6件）  
他（27件）

職員全体で事例の共有・改善対応が話し合われている結果、大きな事故や苦情を未然に防いでいると考えられる。

#### ● 苦情

平成26年度は、通所介護事業で職員の対応に対する苦情が4件発生している。いずれも利用者や家族のことを思っただけの対応であったが、考え方の違いや思い込みから苦情に繋がっている。いずれも大事にはならなかったが、苦情があった場合の報告・連絡・相談、早期対応、利用者・家族への対応力が求められている。

地域包括支援事業で12月に苦情がある。ご本人は認知症で病院から老健に移った後、経済的搾取の可能性があった為長女に対して老健で面会制限行ったところ、地域包括センターの対応に

問題があったのではないかと不信を持ち、裁判も辞さない態度で苦情の訴えが2月頃まで続けた。法律事務所や弁護士にも相談し地域包括センターの対応に問題なかったと判断、そのまま静観しているが訴訟を起こす等の動きはない。

### (2) 感染症対策

平成26年度も高齢福祉部門合同での感染症研修を6月に食中毒に関すること、9月にインフルエンザやノロウイルスに関する感染症研修を行った。

また各事業においても、ミーティング内等で感染症発生時の対応に関する内部研修を行い、10月～3月においては手洗いの徹底、マスクの着用、加湿器の設置、換気、体調の管理等を特に行い感染症を未然に防ぐ努力を行った。

平成27年3月下旬から4月上旬にかけて、認知症通所介護においてインフルエンザB型への感染者が発生。利用者6名、職員3名が感染する。原因として①季節的にインフルエンザが発生するという意識がうすかった。②手洗い・消毒は行っていたが、換気が不十分であった。③症状のある利用者を隔離することが遅くなった。以上が挙げられる。

### (3) サービスへの取り組み

#### ● 施設重点取組事項

##### 1) 予防・一般型通所介護

平成26年度は財務改善プロジェクトのもと利用実績が向上したが、新規利用者が定着し、その後の回数増に繋がったことも実績向上の要因であったと考えられる。

外出プログラムの中止など活動の幅は狭くなったが、職員の利用者への声掛け・積極的な働きかけによる関係づくり等、質の高いケアが出来たことが利用者の満足度に繋が

っている。今後も継続して質の高いケアを提供する為には、研修や指導體制を強化し職員のスキルアップをを計る必要がある。

またボランティアの慰問による歌等、積極的に外部の協力者にも声をかけ利用者の愉しみに繋がる活動を増やしていきたい。

## 2) 認知症対応型通所介護

利用率は財務改善プロジェクトの効果もあり平成 25 年度に比べ向上したが、在宅介護の限界に近いケースも多く、急な入所や入院・ご逝去などで常に定員を満たすことは出来なかった。

- ・連絡ノートでのやり取りやモニタリング・随時の報告などで家族やケアマネジャーとの連携を図ることに徹し、看護師によるかかりつけ医や医療相談員との連携も積極的に図ることが出来た。
- ・ミーティングにより各ケースの状況把握を深め、ケア内容を改善共有することにより、重度の認知症ケースも早めに有効なケア方法を見つけることが出来た。
- ・年間 2 回家族懇談会を開催し、相談員からサービス利用中の様子報告や家族から介護上困っていることなどを話し合った。家族同士での経験談を交えた交流なども盛んにみられ、気持ちが軽くなったと帰られる方も多かった。
- ・平成 26 年度新たに取り組んだ時間延長サービス（パーチェタイム）は年間 10 件の実績があった。今後も家族への周知を図りたい。

## 3) 訪問介護

臨時派遣と祝日派遣の対応をすすめたが、週間派遣目標である 120 件は達成出来なかった。

しかし、派遣回数と派遣時間の伸びがみられ、利用者の介護度が上がったこともあり、収入金額的には伸びがみられた。計画したすべての研修には参加が出来なかったが、内部勉強会を開くことによりヘルパーのスキルアップ、サービスの質の向上につなげることが出来た。また担当ヘルパーによるサービス担当者会議への参加を積極的に行ない、利用者の理解を深めることも出来た。

## 4) 訪問入浴

平成 26 年度の新規利用者は 22 名、終了者 19 名のうち利用 1 年以内終了者は 14 名、継続的な利用が難しい状況であった。予定以外の祝日稼働、急な依頼やお試し利用・短期間利用希望への対応また終末期利用者の対応など利用向上の努力は行ったが、年間利用目標には達成出来なかった。入退院の繰り返しやレスパイト入院・ショートスイの多さや組織改編により稼働台数の縮小をすすめて来たことが要因と考えられる。

## 5) 栄養事業

財務改善プロジェクトに則り自由配食の食数向上に努めた。パンフレット作製や事業所への挨拶まわりなどを行い、少しずつ食数を伸ばし 1 月以降は目標を達成出来るまでに至った。

食事内容向上にも努める予定であったが、退職者の続出や食数向上を再優先で取り組んだことで、利用者への聞き取り調査や季節感を出した食事の提供、食材費の見直しなどは行えなかった。ただ定期的にミーティングを行い、献立作成の合理化は図ることが出来た。

マリアテレジアキッチンを利用したの料理教室を引き続き行ったが、利用者も少なく、本来の業務に支障をきたす恐れがある為、平成 26 年度で一旦中止することとした。

## 6) 居宅介護支援

介護プランは月 155 件の目標に対して月平均 145.6 件で目標未達成であったが、7 月に補充の職員が入職し、引継ぎが終了した 9 月頃より新規を積極的に受けるようになり、12 月以降は月当たりの目標達成、以降安定した件数を保持出来ている。年間延べ件数

1747 件、予防プランは月 5 件、年間延べ件数 60 件、認定調査は月 5 件他市の分を合わせ年間 67 件の実績であった。

利用者視点でのサービス提供に関しては、毎年のアンケートを 12 月に実施、事業所の自己点検票を 9 月に作成したこと、苦情について報告・検討し合う頻度が増えたこと、意識的に法人内紹介ケースを増やした分事業所と協力し合えるケースが増えたことで概ね達成出来た。

自己研鑽と事業所のレベルアップに関しても、個別研修計画に基づいた研修に出席し内部研修として会議内で共有を行ったこと、インテーク面接は管理者が同行し会議内で必ず初回プランの検討をするなどの取組みを行い概ね達成出来た。

## 7) 地域包括事業

総合相談件数は増え続け、高齢者虐待ケースに関する連絡・相談・対応も増えており、小金井市介護福祉課や関係事業所とも連携を取ながら迅速かつ適切な対応スキルが求められた。その他に地域のケアマネジャー支援、認知症サポーター養成講座開催、自主グループさくら体操支援、二次予防事業対象者把握・対応、地域の見守りネットワーク作り等の業務を実施した。事業実績内容は下記の通りである。

- ①総合相談・支援業務 6371 件
- ②虐待・権利擁護 126 件
- ③包括的・継続的ケアマネジメント 474 件
- ④申請代行等 363 件
- ⑤二次予防事業対象者予防プラン 164 件
- ⑥二次予防事業対象者把握事業 745 件
- ⑦要支援者予防プラン作成 3049 件
- ⑧地域介護予防活動支援事業 3 グループ
- ⑨認知症サポーター養成講座開催 7 回 (108 名受講)

## 8) 地域支援事業

### <さくら健康クラブ>

一次クラス (3 ヶ月クール) は 15 名の定員が満杯で地域方の介護予防に貢献できたと考えている。二次クラス (半年クール) は年間 32 名の利用実績であった。卒業後 1 ~2 割の方がさくら体操 (自主グループ体操) を利用している。また介護保険申請し要支援認定を受け予防通所介護を利用される方も増えているが、卒業後の継続的なサービスの受け皿が足りず課題となっている。

### <やすらぎ支援事業>

やすらぎ支援員 6 名、利用者 7 名の登録で年間訪問回数 106 回の実績であった。やすらぎ支援員を増員し訪問回数を増やすことが課題であった為、2/27 にやすらぎ支援員説明会を実施し新たに 1 名のボランティアを登録した。今後も積極的に事業広報等を行い、支援員増員に取り組んでいきたい。

### <家族介護者教室>

3 月に小金井消防署の協力で、高齢者に分かりやすい災害への備え・災害時の体調管理・簡単災害食紹介と題して行い、15 名の方が参加された。

## 9) グリーンタウン高齢者住宅管理

- ・1 日 3 回の巡回により安否の確認健康状態の把握に努めた。
- ・年間 8 件の救急車要請 (本人・家族含) を行い、内 1 名がそのまま入院となった。12/29 には自宅浴槽で心肺停止状態の入居者を発見するケースが起こっている。
- ・隣人トラブルや認知症・状態不安定な入居者に対して、定期外の安否確認や食事の温めなど本来の管理業務を越えての対応が必要となるケースが増えており、各関係機関に対応をお願いしているがなかなか改善されないケースも多い。

- ・グリーンタウン自治会や防災会など地域との連携を考え、自治会・防災会の担当の方と話し合いは行ったが、具体的な内容は決まっていない。
- ・高齢者住宅入居者や一般入居者の交流の場を設ける為、隔週で喫茶を実施し10～15名の方が参加され好評であった。また12月には20名の方が参加されクリスマス会を行い貴重な住民交流の場となった。

## 【施設整備状況】

### (1) 概況説明

設置後、24年が経過しており、様々な箇所で修繕・メンテナンスの必要が出ているため、施設全体を担当する職員を決め、施設整備全体を管理する方法をとっている。担当者は、施設全体の現状を把握し、必要箇所の優先度を決め計画的に整備を進めている。

### (2) 主な固定資産

平成26年度10万円以上の固定資産購入はない。

### (3) 主な修繕

● 2014年4月	受水槽清掃と連結部分修理	94,841円
● 2014年4月	温水循環ポンプ交換修理	133,920円
● 2014年5月	温水ヒーター修理交換	124,200円
● 2014年7月	雑排水フロートスイッチ交換	59,292円
● 2014年10月	ボイラー1次温水ポンプ交換	133,920円
● 2014年11月	ボイラー2次温水ポンプ交換	133,920円
● 2015年2月	給水加圧ポンプ交換	1404,000円
● 2015年2月	大型洗濯機基盤交換	49,464円

## 2014年度 研修計画・研修実施一覧表（期間 2014/4/1～2015/3/31）

（部署名：桜町センター：通所介護・認知症通所介護）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2014/4/9	人材育成	運転・添乗の心得(内)	桜センター	通所介護職員
2014/6/10	人材育成	接遇に関して(内)	桜センター	通所介護職員
2014/6/13	感染症	食中毒予防対策講座(内)	桜センター	高齢福祉部門職員
2014/7/9	看護	高次機能障害・胃瘻について(内)	桜センター	通所介護職員
2014/9/9	法令遵守	介護保険法令遵守について(内)	桜センター	通所介護職員
2014/10/2	総合	これからの在宅サービスの未来	新宿	星野廣平
2014/10/11	看護	口腔ケアと嚥下リハビリテーション	立川	三瓶寿美代・細谷敦子
2014/10/16	総合	カトリック老人福祉研修	横浜	鈴木治実
2014/11/18	感染症	ノロウイルス・インフルエンザ対応研修(内)	桜センター	通所介護職員
2014/11/27	総合	地域包括ケアシステム勉強会	東小金井	細谷敦子
2014/12/9	認知症	認知症研修(内)	桜センター	通所介護職員
2014/12/13・14	その他(実習)	社会福祉士実習指導者講習会	清瀬	星野廣平
2014/2/8	総合	多摩在宅医療・地域包括ケア勉強会	国立	鈴木治実
2015/2/21	認知症	認知症の理解と対応	武蔵小金井	浦和美恵・難波郁子 星野廣平

（部署名：桜町ケアマネジメントセンター）

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2014/6/6	リスクマネジメント	居宅介護支援事業者のリスクマネジメント	府中	金丸直子
2014/7/17	医療連携	地域連携会議	府中	春日井恵
2014/8/22	認知症	認知症三市合同研修会	武蔵小金井	遠藤直美
2014/9/12	認知症	認知症と薬物治療	武蔵小金井	全ケアマネジャー
2014/9/16	認知症	認知症高齢者への介護サービスの向上	杉並	金丸直子
2014/10/31	総合	地域ケア会議	小金井	金丸直子・高野満知子
2014/11/15	リスクマネジメント	事例から学ぶ法的思考法とリスクマネジメント	中野	金丸直子
2014/11/22	医療連携	在宅での看取りを考える	新宿	高野満知子・塩田美紀
2014/11/27	総合	地域包括ケアシステム勉強会	東小金井	春日井恵
2014/12/9	医療連携	ターミナルケア	武蔵小金井	全ケアマネジャー
2014/12/10	医療	精神疾患の基礎知識	武蔵小金井	塩田美紀
2014/12/15	総合	地域ケア会議	武蔵小金井	金丸直子・春日井恵
2015/2/9	医療	糖尿病と運動	武蔵小金井	全ケアマネジャー
2015/2/16	総合	地域ケア会議で行う支援困難ケース	武蔵小金井	金丸直子・春日井恵 高野満知子
2015/3/20	リスクマネジメント	支援困難ケース対応とリスクマネジメント	武蔵小金井	金丸直子・春日井恵 高野満知子・遠藤直美

（内）は内部研修を意味する

## (部署名:小金井きた地域包括支援センター)

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2014/6/2	認知症	認知症アセスメントシート研修	新宿	菊池里香・中野紗綾香
2014/7/22・23	認知症	認知症地域支援体制推進全国セミナー	浴風会	平山幸子
2014/7/29	医療連携	地域連携会議	府中	平山 幸子
2014/9/11	総合	介護保険はこう変わる	武蔵小金井	菊池里香
2014/10/2・3	認知症	認知症地域支援体制推進全国セミナー	浴風会	中野紗綾香
2014/11/17	認知症	北多摩南部認知症連携会議	杏林病院	平山幸子
2014/11/18	虐待防止	高齢者間DV被害者支援者の現状と課題	渋谷	中野紗綾香
2014/11/29	医療	高次脳機能障害について	萌え木ホール	菊池里香
2014/12/1・2	総合	地域ケア会議に係る実務者研修	東京	中野紗綾香
2014/12/10	介護	ヘルパーに知ってほしい精神疾患の基礎知識	萌え木ホール	菊池里香
2015/1/20・21	総合	新地域支援事業助け合い活動推進研修会	五反田	中野紗綾香
2015/1/31	認知症	認知症キャラバン報告会	砂防会館	平山幸子
2015/2/7	その他	福祉と司法が連携する社会	東京	菊池里香・中野紗綾香
2015/1/29・30	認知症	認知症地域支援体制推進全国セミナー	浴風会	増田敏子
2015/2/13	虐待防止	高齢者虐待について	杏林病院	菊池里香
2015/2/26	虐待防止	市区町村における高齢者虐待防止施策	新橋	増田敏子

## (部署名:桜町ホームヘルプステーション)

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2014/4/24	人材育成	介護職の接遇		大久保真弓
2014/5/21	法令遵守	法令遵守の管理体制	新橋	永井勝代
2014/5/28	介護	介護職の為の上手なコミュニケーション技術	新橋	川崎なつみ
2014/7/10	介護	介護職の為の福祉用具活用術	新橋	服部正子
2014/9/12	認知症	神経難病に伴う、うつや認知症状	府中	大久保真弓・織茂成美
2014/9/24	総合	介護と医療の連携(サービス提供責任者研修)	飯田橋	丸田春香
2014/11/29	医療	高次脳機能障害について	武蔵小金井	永井勝代
2014/12/10	医療	ヘルパーに知ってほしい精神疾患の基礎知識	武蔵小金井	織茂成美
2014/12/19	介護	介護に取り入れるアロマ手浴・足浴	小金井市	川崎なつみ

【事業状況】（平成26年度利用状況集計表）

上段：人（件） 下段：千円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
一般サービス	人数予	28人	728	672	700	756	728	700	728	700	644	672	644	728	8,400
	実績		661	625	668	738	690	692	712	718	687	664	687	817	8,359
	達成率		0.91	0.93	0.95	0.98	0.95	0.99	0.98	1.03	1.07	0.99	1.07	1.12	1.00
	収入予	9000	6,552	6,048	6,300	6,804	6,552	6,300	6,552	6,048	5,796	6,300	5,796	6,552	75,600
	実績		6,041	5,723	6,095	6,339	6,150	6,436	6,424	6,824	6,264	6,067	6,177	7,503	76,043
	達成率		0.92	0.95	0.97	0.93	0.94	1.02	0.98	1.13	1.08	0.96	1.07	1.15	1.01
認知サービス	人数予	18人	468	432	450	486	468	450	468	450	414	432	414	468	5,400
	実績		423	404	412	463	427	439	481	420	412	399	400	436	5,116
	達成率		0.90	0.94	0.92	0.95	0.91	0.98	1.03	0.93	1.00	0.92	0.97	0.93	0.95
	収入予	11000	5,148	4,752	4,950	5,346	5,148	4,950	5,148	4,950	4,554	4,752	4,554	5,148	59,400
	実績		5,239	4,559	5,398	5,622	5,291	5,057	6,061	5,241	5,110	5,121	4,929	5,352	62,980
	達成率		1.02	0.96	1.09	1.05	1.03	1.02	1.18	1.06	1.12	1.08	1.08	1.04	1.06
訪問入浴	人数予	55人	143	143	138	148	143	143	143	143	132	132	132	143	1,683
	実績		145	153	132	145	134	130	137	120	134	127	132	150	1,639
	達成率		1.01	1.07	0.96	0.98	0.94	0.91	0.96	0.84	1.02	0.96	1.00	1.05	0.97
	収入予	13615	1,947	1,947	1,872	2,022	1,947	1,947	1,947	1,872	1,872	1,797	1,797	1,947	22,914
	実績		1,931	2,135	1,802	1,980	1,816	1,797	1,866	1,536	1,862	1,747	1,757	2,124	22,353
	達成率		0.99	1.10	0.96	0.98	0.93	0.92	0.96	0.82	0.99	0.97	0.98	1.09	0.98
訪問介護	件数予	週120件	500	480	500	520	520	480	520	460	460	460	460	500	5,860
	実績		417	392	394	448	423	443	458	416	479	470	487	567	5,394
	達成率		0.83	0.82	0.79	0.86	0.81	0.92	0.88	0.90	1.04	1.02	1.06	1.13	0.92
	収入予		1,883	1,648	1,726	1,804	1,726	1,726	1,804	1,648	1,569	1,569	1,569	1,726	20,398
	実績		1,524	1,461	1,465	1,549	1,545	1,612	1,654	1,486	1,713	1,944	1,796	2,071	19,820
	達成率		0.81	0.89	0.85	0.86	0.90	0.93	0.92	0.90	1.09	1.24	1.14	1.20	0.97
ケアマネ	件数予	155件	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	1,860
	実績		143	146	148	144	146	147	146	141	159	155	164	168	1,807
	達成率		0.92	0.94	0.95	0.93	0.94	0.95	0.94	0.91	1.03	1.00	1.06	1.08	0.97
	収入予		2,414	2,414	2,414	2,414	2,414	2,414	2,414	2,414	2,414	2,414	2,414	2,414	28,968
	実績		2,274	2,323	2,353	2,274	2,315	2,344	2,327	2,221	2,563	2,449	2,637	2,671	28,751
	達成率		0.94	0.96	0.97	0.94	0.96	0.97	0.96	0.92	1.06	1.01	1.09	1.11	0.99
栄養（自由配食）	食数予	62食	1,550	1,488	1,550	1,612	1,612	1,488	1,550	1,426	1,550	1,426	1,426	1,550	18,228
	実績		1,342	1,231	1,312	1,339	1,320	1,456	1,500	1,372	1,442	1,424	1,512	1,646	16,896
	達成率		0.87	0.83	0.85	0.83	0.82	0.98	0.97	0.96	0.93	1.00	1.06	1.06	0.93
	収入予		1,380	1,324	1,380	1,435	1,435	1,324	1,380	1,269	1,380	1,269	1,269	1,380	16,225
	実績		1,187	1,094	1,166	1,190	1,173	1,294	1,333	1,219	1,335	1,266	1,344	1,464	15,065
	達成率		0.86	0.83	0.84	0.83	0.82	0.98	0.97	0.96	0.97	1.00	1.06	1.06	0.93
合計	収入予		20,123	18,871	19,411	20,655	20,021	19,430	20,044	18,970	18,292	18,839	18,106	19,966	232,728
	実績		18,910	17,945	19,007	19,725	19,029	19,283	20,445	19,281	19,579	19,296	19,331	22,006	233,837
	達成率		0.94	0.95	0.98	0.95	0.95	0.99	1.02	1.02	1.07	1.02	1.07	1.10	1.00
きた包括	件数予		235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	235	2,820
	実績		240	237	234	247	248	253	263	262	268	262	268	274	3,056
	差額		5	2	-1	12	13	18	28	27	33	27	33	39	236
	達成率		1.02	1.01	1.00	1.05	1.06	1.08	1.12	1.11	1.14	1.11	1.14	1.17	1.08
	収入予		652	652	652	652	652	652	652	652	652	652	652	652	7,824
	実績		516	499	513	540	488	469	493	469	513	533	549	580	6,162
達成率		0.79	0.77	0.79	0.83	0.75	0.72	0.76	0.72	0.79	0.82	0.84	0.89	0.79	



### Ⅲ 本町高齢者在宅サービスセンター（通所介護、小金井市委託事業）

#### 【平成26年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率（H26）	利用率（H25）	利用率（H24）
通所介護（予防・一般）	25名	23.1名	92.2%	82.8%	84.5%
認知症型通所介護	12名	9.7名	80.8%	73.1%	76.4%
食の自立支援事業	80名	83.5名	114.1%	110.2%	106.8%

#### ① 通所介護（予防型・一般型）

平均年齢 84歳（最高99歳、最低59歳） 男女比率 男性39%：女性61%

※男性の比率が2.4%上昇した（昨年度比）

利用登録者 要介護者 69名 要支援者 13名 合計 82名（2015.3月）

新規利用者 26名 主な利用理由（在宅での自立生活を保つ為の利用・転倒や認知症予防・家族介護軽減・孤立防止・入浴希望等）

廃止利用者 25名 主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院・転居・他サービス利用）

#### ② 認知症対応型通所介護

平均年齢 83歳（最高98歳、最低70歳） 男女比率 男性29%：女性71%

※男性の比率が5%上昇した（昨年度比）

利用登録者 要介護者 31名 要支援者 0名 合計 31名

新規利用者 13名 主な利用理由（認知症の方の全面的支援・認知症ケア・見守り対応・家族介護軽減・その他等）

廃止利用者 10名 主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院）

#### 【職員】

	平成26年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成27年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1名		1名							1名		1名
生活相談員	3名		3名							3名		3名
介護職員		10名	10名			4	3	4	3		11名	11名
看護職員		5名	5名								5名	5名
栄養士調理		5名	5名				1		1		4名	4名
宅配員		9名	9名			3	2	3	2		10名	10名
食の自立 Co		1名	1名								1名	1名
事務員		1名	1名								1名	1名
運転員		5名	5名								5名	5名
清掃員		3名	3名								3名	3名
合計	4名	39名	43名			7	6	7	6	4名	40名	44名

## 【施設運営状況】

### (1) 財務改善の取組み

2014年度（平成26年度）は指定管理期間の第3期（5か年：平成23年度～平成27年度）の4年目にあたる。

高齢福祉部門一特に桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンターの2姉妹施設一が法人を挙げて財務改善に取り組みを開始した年度であった。

2013年度（平成25年度）決算は資金収支計算書上、経常活動資金収支差額で2万3千円（前年度比1367万2千円増）。当期末支払資金残高で5304万1千円。事業活動収支計算書上、事業活動収支差額で296万6千円。当期活動収支差額は▲282万4千円。人件費率は70.4%。

一方、2014年度（平成26年度）は、決算は資金収支計算書上、経常活動資金収支差額で1367万4千円（前年度比1099万1千円増）。当期末支払資金残高で6736万8千円（前年度比1432万7千円）。事業活動収支計算書上、事業活動収支差額で1890万5千円（前年度比1593万9千円増）。当期活動収支差額は1096万9千円（前年度比1379万4千円）と大幅な黒字化に転じている。人件費率は62%。

増収の直接的要因には、①年間営業日数の7日増（祝日の一部営業開始）、②財務改善プロジェクトに則ったデイサービスの稼働率改善（過去最高）、③人件費率の抑制（70.4%⇒62%）が挙げられるが、後述するような地道な取組みもゆっくりと効果を挙げている。

#### 1) 財務改善プロジェクト会議の開催

- 実施日時 : 毎月第2・4月曜日 17:45～（於：戸塚ホール）
- 実施内容 : ①2週間ごとの稼働率チェック  
②1か月ごとの稼働率、収入達成状況のチェック（対予算ベース）  
③1か月ごとの資金繰りチェック  
④財務改善ルールの実施状況についてのモニタリングと意見交換

#### 2) 年間休暇数の変更、祝日の一部営業開始

- 労働カレンダーで公休数は年間113日とした。  
※完全週休2日制による104日+元旦休1日+夏・冬休8日
- 祝日の一部営業開始  
①昭和の日（4/29） ②海の日（7/21） ③敬老の日（9/15） ④文化の日（11/3）  
⑤勤労感謝の日（11/24） ⑥成人の日（1/12） ⑦春分の日（3/21）  
※上記祝日が日曜日の際は振替休日を営業日とする。

#### 3) 職員配置数の適正化

- 職員定数管理  
※桜町センターならびにヨハネホームはいずれも人件費率が80%超の実態
- 業務の効率化・合理化  
属人的業務⇒組織的業務

#### 4) 医療と介護の連携（法人内）

- 病院との管理者会議で検討してきた患者ノート（通称「さくらノート」）の素案を作成するなどして、法人内の医療と介護の連携が更にすすむよう試験的实施に取り組んだ。

#### 5) 新組織体系の作成・組織規程の作成

- 高齢福祉部門の組織の見直し（鍋蓋型組織から階層組織へ変更）
- 組織規程を作成

#### 6) 給与規程、就業規則の見直しと修正

- 新組織体制実施にむけた給与規程見直し
  - ・諸手当（別表1、別表6）
  - ・超過勤務手当（算定基礎）
  - ・コール手当（新規）
  - ・冬休調整手当（新規）
  - ・処遇改善手当（支給時期など）
  - ・介護支援専門員手当（新規）
  - ・賞与（支給月・支給日）

- 新組織体制実施にむけた就業規則の見直し
  - ・職種（第4条）
  - ・休日及び休暇（第26条）

一方、本町センターの財務改善取組み活動は下記の通り。

#### 7) 事業計画書の進捗状況チェックと職員会議での共有

- ▶ 四半期に1回を目標に事業計画への取組進捗状況の確認を行った。
- ▶ 確認方法は職員個人ごとにチェックをさせた結果を集計し、全体の達成状況を確認する方法をとった。
- ▶ 結果は職員会議で公表し、次の四半期の備えとして活かすようにした。

#### 8) できること・やりたいこと探しクラブ（通称「さくらんぼ工房」）の創設《新規》

- ▶ 虚弱者、初期認知症者の増加と集団活動優先のケア体質のミスマッチが顕在化
- ▶ 職員の意識改革を狙いとしテストパイロット的なクラブとして立上げる。
- ▶ ご利用者・職員からの賛同者が増えつつあり、更なる機能充実が今後の課題

#### 9) 訪問理美容サービスの導入《新規》

- ▶ 2012年度に実施したアンケート結果の具現化。
  - ※2013年度は一部職員の保守的反応が目立ったためペンディングとしていたが、財務改善につながるサービス改善・機能強化の具体策が検討されてこなかった実態から今期は実施に踏み切ることにした。
- ▶ 利用者の反響良く、サービスの定着化がすすんだ。

#### 1 0) 入浴サービス枠の拡大《サービス量の拡大》

- ▶ 午後は未実施だった入浴サービスを開始した。
  - ※職員都合で午後は未実施としていたものをご利用者ニーズ優先とし実施した。

#### 1 1) 個別機能訓練の充実《リハビリ機能の強化》

- ▶ 理学療法士による指導日を月1回設定し、看護職員主導で実施している個別機能訓練の内容の充実を図った。
- ▶ 看護職員、生活相談員と理学療法士で素案をつくり、今後は実施の定着化にむけ介護職員に運用に際しての指導を展開する予定。

#### 1 2) 活動の充実にむけた取組み《利用者ニーズへの対応》

- ▶ 新規ボランティアの受入（囲碁、書道、音楽）
- ▶ コメダ珈琲喫茶外出
- ▶ コンサート（ヴォーチェアプリートさん、ららまりあさん、グレゴリオさん  
本町2丁目コーラスグループさん、シルバー人材センター音楽活動グループさん等）
- ▶ リハビリクッキングの試験的实施（管理栄養士と介護職員の協働によるセラピューティックな活動）

#### 1 3) 健康対策《入院予防、長期入院予防》

- ▶ 感染症対策（健康講話、感染症研修、手洗いキットによる手指消毒実習、マスクエチケット・手洗い・うがいの励行、次亜塩素酸による消毒励行、空間除菌器具の購入・設置）
- ▶ 脱水予防（脱水リスク者のピックアップと水分摂取量の記録化）
  - ※冬季も実施
- ▶ 早期発見早期対応（バイタルチェックの報連相推奨、必要時の受診付添対応）

#### 1 4) たんの吸引研修への参加《中重度者受入ニーズへの対応》

- ▶ ご利用者様の状態悪化によりたんの吸引が必要となった事例が発生したこと。また、2015年度の介護保険制度改定以後、デイサービスセンターは在宅での看取りや認知症ケアに特化する形で機能することが求められていること。などから、今般、ケアワーカーをたんの吸引研修に参加させるとともに、当センターの看護職員も同研修の指導看護師として参加させた。

### 1 5) 情報提供《ご利用者・家族・ケアマネジャー等への便宜促進》

- ▶ 空き情報の定期的提供（FAX、ホームページ、訪問による営業）
- ▶ ホームページの情報更新（活動紹介文、写真など）
- ▶ 東京都サービス情報公表制度の受審

### 1 6) 支出削減

- ▶ 必要最小限の支出にとどめることを基本とした。
- ▶ 防災機器修理交換品は業者による人件費抑制のためセンターで購入実施した。
- ▶ 用具用品の購入は、機能効果に支障のない範囲で同種最安値のものとした。
- ▶ ワークライフバランスを大事にし、超過勤務時間を適切な範囲にするよう努めた。

## 【利用者支援状況】

### (1) リスクマネジメント

#### ● 介護事故

- ・市へ報告すべき介護事故は全事業を通して発生していない。

#### ● ヒヤリハット

- ・ヒヤリハットは、予防デイ・一般デイで年間 30 件（昨年度 45 件）。認知デイで 8 件（昨年度 15 件）となっており、介護事故同様に抑えられた結果となっている。
- ・ヒヤリハットの報告には、リーダー層以上が必ず原因分析と対策に細かなチェックを入れることを義務づけてきた。
- ・なぜなら、ヒヤリハットの対策が多分に精神論に走る傾向があるからであり、尚且つその実態をリーダー層が是正していない実態があるからだ。
- ・事業別では、通所介護事業以外に受託事業である配食サービスにおいても過誤請求のヒヤリがあった。原因は配食コーディネーターと市担当者とのあいだで事務手続きについて手違いがあったためである。
- ・これを機に当センターでは、「配食サービス利用手順書」の見直しを行い、市の担当者などにも確認していただき、再発防止に取り組んでいる。

#### ● 車輛事故

- ・5 件。内訳は自損事故 4 件。駐車場内での他車輛への接触事故 1 件
- ・いずれも不注意によるものである。
- ・シルバー世代の再雇用によるデイサービス送迎、配食の宅配体制を組んでいるが、安心・安全な運行体制の確立のためには、危険予知トレーニングや事故・違反のペナルティ制度などの検討が必要と考えている。

#### ● 苦情

- ・市の配食事業で配食漏れの苦情が 4 月と 8 月に発生した。
- ・4 月は配食漏れの苦情にとどまらず、苦情受付後のフォローアップに判断ミスがあり苦情が重篤化した。
- ・苦情の重篤化の理由は、配食未配達時の苦情受付手順書が未作成であったことによる。担当者レベルでは未だ経験値が低いということもあり判断に迷うことが少なくない。
- ・したがって、未配達の連絡が入った場合の対応についてフロー図化し、誰でも適切に判断し対応できるよう業務改善を行った。

### (2) 感染症対策

- ・財務改善取組の 1 3) 健康対策を参照のこと。
- ・今後の課題は、ヨハネ会高齢福祉部門として感染症対策強化期間や感染症対策マニュアルの一元化を図ること。
- ・現在はまだ高齢福祉部門としての統一性に欠けた判断対応となっている部分が少なくないため感染症対策委員会の活動内容については在宅サービス部においてのチェック

機能を果たすことが求められている。

### (3) サービスへの取組み

- ・財務改善取組の7)～15)に同じ。
- ・最大の課題は職員の意識改革。ヨハネ会しか知らない、本町センターしか知らない職員の課題解決意識を高めてゆくにはどうしたらよいか。
- ・OFF-JT、OJTにはすでに常勤限界が見えており、今後については部門全体で人材育成を検討する必要があると考える。
- ・2015年度に向けては、グループワークの検討機会をつくるなどしてコミュニケーションの活性化を図り、前向きな取組みへの足掛かりとなるように努めている。

### 【施設整備状況】

月日	曜日	設備備品名	内容	金額
7月25日	金	機械浴槽	チェアインタイプ機械浴槽(フローコントロールカー トリッジ交換)	¥50,533
7月23日	土	空調機	SGP-CH450G1N プラグ交換、ミキサー清掃	¥23,198
8月18日	月	冷凍庫	I/O基盤交換修理	¥39,171
1月30日	金	炊飯器	Fタイプ炊飯器基板(T6FMQ-A701A)	¥64,735

- ・このほか、市の財源にて5月に外壁修理(厨房外壁タイルの浮きに対してボルトによる固定とコーキング)を実施。
- ・9台所有する車輛の整備と修理費の合計は年間約212万円。1台あたり23万6千円の計算。

### 【その他】

- ・2015年2月 福祉機器業者よりマッサージチェアの寄贈の申出あり。職員の福利厚生用にお受けすることとした。(ご利用者への適用は骨折などの事故が想定されることから使用対象としない判断をした。)この製品は同業者を利用した在宅高齢者からの寄贈であったが、業者を通じて福利厚生として使用することについても了解を得て導入させて頂いた。
- ・広報委員会ホームページ担当委員長として、ホームページ更新ルールをつくり更新作業の定着化を図った。
- ・防災委員会防火管理担当者として、自動参集方法、指揮命令系統、初動30分マニュアル案の作成に携わった。

【事業状況】(利用実績集計表・利用率の推移)

事業別 2014(H26)年度 利用実績集計表 2014年4月～2015年3月 本町高齢者在宅サービスセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均		
介護保険	通所介護・一般 日数	26	24	25	27	26	25	26	25	24	24	23	26	301		
	25名/日 定員	登録数	650	600	625	675	650	625	650	625	600	600	575	650	7,525	
		登録数	58	58	60	64	63	64	67	67	67	66	67	70	64	
		実利用者数	58	58	60	64	63	64	67	67	67	66	67	70	64	
		延利用者数	484	457	482	538	475	514	539	509	463	469	463	548	5,941	
	(20人想定)	人数/日当	18.6	19.0	19.3	19.9	18.3	20.6	20.7	20.4	19.3	19.5	20.1	21.1	19.7	
		利用率	93.1%	95.2%	96.4%	99.6%	91.3%	102.8%	103.7%	101.8%	96.5%	97.7%	100.7%	105.4%	98.7%	
		登録数	20	20	19	18	15	15	14	14	14	12	12	12	15	
		実利用者数	20	20	19	18	15	15	14	14	14	12	12	12	15	
	(5名想定)	延利用者数	103	94	100	106	85	85	77	77	74	63	62	71	997	
		人数/日当	4.0	3.9	4.0	3.9	3.3	3.4	3.0	3.1	3.1	2.6	2.7	3.1	3	
		利用率	79.2%	78.3%	80.0%	78.5%	65.4%	68.0%	59.2%	61.6%	61.7%	52.5%	53.9%	61.7%	66.7%	
		小計	延利用者数	587	551	582	644	560	599	616	586	537	532	525	619	6,938
		利用率	90.3%	91.8%	93.1%	95.4%	86.2%	95.8%	94.8%	93.8%	89.5%	88.7%	91.3%	95.2%	92.2%	
事業	通所介護・認知症 日数	26	24	25	27	26	25	26	25	24	24	23	26	301		
	12名/日 定員	登録数	312	288	300	324	312	300	312	300	288	288	276	312	3,612	
		登録数	27	28	27	28	35	35	33	32	32	32	33	29	31	
		実利用者数	27	28	27	28	35	35	33	32	32	32	33	29	31	
		延利用者数	248	239	211	229	260	260	262	254	225	248	238	239	2,913	
	通所介護合計	人数/日当	9.5	10.0	8.4	8.5	10.0	10.4	10.1	10.2	9.4	10.3	10.3	9.2	10	
		利用率	79.5%	83.0%	70.3%	70.7%	83.3%	86.7%	84.0%	84.7%	78.1%	86.1%	86.2%	76.6%	80.8%	
		実利用者数	105	106	106	110	113	114	114	113	113	110	112	111	111	
		延利用者数	835	790	793	873	820	859	878	840	762	780	763	858	9,851	
		※通所介護全体利用率	86.8%	89.0%	85.7%	87.4%	85.2%	92.9%	91.3%	90.8%	85.8%	87.8%	89.7%	89.2%	88.5%	
	地域支援事業	かいてき健康クラブ 日数	4	4	4	5	4	4	5	4	4	4	3	4	49	
		12人/日 定員	登録数	48	48	48	60	48	48	60	48	48	48	36	48	588
			登録数	18	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18
			実利用者数	18	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18
延利用者数			67	65	62	74	73	68	88	58	56	59	45	65	780	
家族介護者教室		回数								1					1	
		利用者数								24					24	
		回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
		利用者数	4	3	9	6	3	4	4	3	4	18	4	10	72	
食の自立支援事業		食の自立支援事業 日数	25	24	25	26	26	24	26	23	23	23	23	25	293	
		80人/日 定員	登録数	2000	1920	2000	2080	2080	1920	2080	1840	1840	1840	1840	2000	21,440
			登録数	1968	1917	2092	2248	2163	2011	2193	1938	1938	1944	1988	2151	24,551
			利用率	98.4%	99.8%	104.6%	108.1%	104.0%	104.7%	105.4%	105.3%	105.3%	105.7%	108.0%	107.6%	114.5%
			①配食サービス	登録数	193	197	202	205	205	205	201	206	214	215	211	210
	②緊急配食	実利用者数	179	186	196	197	193	192	196	194	200	201	200	201	-	
		延食数	1965	1901	2083	2243	2159	2002	2177	1933	1934	1940	1974	2146	24,457	
		食/日当	78.6	79.2	83.3	86.3	83.0	83.4	83.7	84.0	84.1	84.3	85.8	85.8	83.5	
		利用率	98.3%	99.0%	104.2%	107.8%	103.8%	104.3%	104.7%	105.1%	105.1%	105.4%	107.3%	107.3%	114.1%	
	③活動会食サービス	実利用者数	0	2	2	1	0	1	2	0	0	0	2	1	11	
		延食数	0	6	6	1	0	5	7	0	0	0	10	2	37	
		回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
		延利用者数	3	10	3	4	4	4	9	5	4	4	4	3	57	
	④いづくカフェ	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
延利用者数		5	5	5	6	5	6	6	4	6	5	5	5	63		
回数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
延利用者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
⑤栄養マネジメント	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	回数	10	11	15	12	9	10	9	6	9	7	9	8	115		
	新規・継続															
独自事業	高齢者見守りサービス	実利用者数	3	0	1	2	2	1	2	1	0	1	1	14		
	バーチャタイム(自費)	延利用者数	3	0	1	2	2	1	2	1	0	2	1	15		
	地域社会支援①	回数	7	8	8	6	1	8	8	8	6	2	7	76		
	元気です本町2丁目会等	延人数	41	41	42	30	4	39	39	40	36	9	36	393		
	地域社会支援②	回数	4	3	4	5	3	4	3	3	3	4	4	45		
	いきいき健康クラブ	延人数	16	14	17	20	12	20	12	14	14	13	20	186		
	日常生活支援	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	(各種相談対応等)	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ボランティア活動	実人数	33	39	43	39	39	31	37	39	37	32	32	37	-	
		延人数	95	98	112	123	93	129	92	112	110	86	93	89	1,232	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	

## 【教育研修一覧】

## 2014年度 研修実施一覧表

日程	分類	研修内容	場所	氏名
2014/4/10・11	認知症	第1回認知症公開講座	茗荷谷	大木 清美
2014/4/15～29	新任研修	本町S.C通所介護	本町センター	坂本 広子
2014/5/16	嚥下・摂食	「食べるを介助する」 ～おいしく、楽しく、安全に食べるには～	日本歯科歯学	西村 貴子
2014/5/27、9/30	嚥下・摂食	多摩クリニック摂食・嚥下研修会	小金井市	西村 貴子
2014/6/13・24	感染症	食中毒予防対策講座	桜町SC	川村 八千代
2014/6/18・19	認知症	第2回認知症公開講座	茗荷谷	坂本 広子 (抽選モレ不参加)
2014/7/16	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修	文京区	高野 幸子
2014/7/16	新任研修	デイサービス新任職員研修①	武蔵野市	坂本 広子
2014/7/16	看護	医療職と介護職の連携ポイントを探る	新宿区	西村 貴子
2014/7/18	認知症	認知症サポーター養成研修	桜町SC	近江 星樹
2014/7/25	認知症	認知症の理解と対応	新宿区	木戸 幸代
2014/8/19・20	認知症	第3回認知症公開講座	茗荷谷	西村 貴子 (抽選モレ不参加)
2014/8/22	新任研修	デイサービス新任職員研修②	武蔵野市	坂本 広子
2014/8/23・24	看護	たんの吸引等の実施のための研修 (基本研修)	神保町	川村 八千代
2014/8/26	権利擁護	介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修	新宿区	川村 八千代 (抽選モレ不参加)
2014/9/5	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修	文京区	川村 八千代
2014/9/12	認知症	認知症ケアに関する研修会(基礎編)	立川市	小林 晴美 (ペンディング)
2014/9/17	権利擁護	社会福祉事業従事者人権研修	文京区	久保 あゆみ
2014/9/18	感染症	三施設合同研修	桜町SC	西村 貴子
2014/10/16・17	理念研修	第28回日本カトリック老人施設全国研修大会	横浜	川村 八千代
2014/10/16・17	認知症	第4回認知症公開講座	茗荷谷	坂本 広子 (抽選モレ不参加)
2014/10/28	感染症	三施設合同研修	桜町SC	西村 貴子
2014/11/5	新任研修	桜町S.C通所介護	本町センター	神田 久美子
2014/11/14	機能訓練	通所系サービスにおけるリハビリのあり方について	新宿区	西村 貴子
2014/11/17	リスクマネジメント	居宅サービス現場におけるリスクマネジメント	秋葉原	山田 知子
2014/11/18	通所介護計画	通所介護計画の基本的な理解と視点	新宿区	山田 知子
2014/11/19	介護保険制度	介護保険制度改正に向けた説明会	小金井市	吉田 貴夫
2014/12/8・9	看護	第25回全国福祉医療施設大会 「地域包括ケアシステムと福祉医療施設の役割を考える」	京都市	山極 愛郎
2014/12/8	認知症	認知症ケアに関する研修会(実践編) 第1回認知症に関する家族支援について	飯田橋	久保 あゆみ
2014/12/12	認知症	認知症ケアに関する研修会(実践編) 第2回認知症種類別対応編	飯田橋	西村 貴子
2015/1/5～28	新任研修	本町S.C通所介護	本町C 桜町C	益井 加代子
2015/1/27	認知症	認知症の理解と対応 みなみ包括主催	小金井市	高野 幸子
2015/2/2	認知症	身近で支える認知症	小金井市	川村 八千代
2015/2/25	介護保険制度	次期介護保険法改正と通所介護 ～機能訓練への影響～	新宿区	山極 愛郎 西村 貴子
2015/3/6	経営	特別養護老人ホーム等施設整備費補助制度概要説明会	文京区	山極 愛郎
2015/3/17	介護	小金井市介護職員現任研修	小金井市	坂本 広子
2015/3/24	介護保険制度	介護報酬改定に伴う事業者説明会	八王子	岡田 愛子

### 3. 医療部門

#### 【 総 括 】

##### 1. 収入

電子カルテの導入に伴う患者調整や各科の個別事情が重なり、患者数の確保ができず、計画収入を大きく下回る結果となった。

計画 3,250,243 千円

実績 3,177,296 千円 (計画比▲72,947 千円、昨年度比+74,464 千円)

患者数 入院 計画 157 人 実績 152.4 人 (▲4.6 人、昨年度比▲3.1 人)

外来 計画 398 人 実績 385.0 人 (▲13.0 人、昨年度比▲9.2 人)

診療単価 入院 計画 35,508 円 実績 36,007 円 (+499 円、昨年度比+2,092 円)

外来 計画 6,037 円 実績 6,038 円 (+1 円、昨年度比+80 円)

入院診療収入 診療報酬改定で基本料や手術料などがアップしたことなどにより診療単価は計画を上回ったが、患者数の減をカバーできず計画収入を下回った。

外来診療収入 患者数が確保できなかったために計画減となった。

##### 2. 支出

支出については、業務遂行に支障のない範囲内での支出抑制や節減に努め、科目ごとの増減はあるものの計画内に納めることができた。

計画 3,313,406 千円

実績 3,249,830 千円 (計画比▲63,576 千円、昨年度比+91,866 千円)

材料費 計画比▲6,697 千円 昨年度比+4,245 千円

給与費 計画比▲35,321 千円、昨年度比+12,452 千円

器械賃借料 計画比+15,990 千円 昨年度比+39,598 千円

器械保守料 計画比▲6,012 千円 昨年度比+5,086 千円

電力費 計画比+1,596 千円 昨年度比+3,930 千円

診療費減免額 計画比+3,735 千円 昨年度比+4,739 千円

##### 3. 収支差

収入が計画に対し未達となり、当期利益は▲72,534 千円と大きな欠損となった。

##### 4. さくらまち保育所は、保育児実数 48 人の保育を行った。

##### 5. 桜町児童ショートステイは、小金井市始め小平市など近隣市の障害児の短期入所及び日中一時支援としてそれぞれ約 300 人の支援を行った。都立小金井特別支援学校改築工事中の通学支援に関し、関係市と協議した。



## I 桜町病院（生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業）

### 【運営状況】

#### 1. 事業概況について

年度を通じて患者確保が出来なかった。特に入院患者が少なかった。

診療報酬改定などにおいて具体的に医療制度改革が進められている中で、地域における当院の位置づけを再確認し、病院機能の在り方を検討する在り方検討会を設置して検討を行った。

平成 26 年度は欠員となっていた整形外科の医師を補充することが出来た。整形外科診療は関節外科領域の拡充が図られた。

施設基準の維持や患者確保にも影響する看護師の確保に努め、新年度に向け体制の充実を図ることが出来た。

診療機能充実のために、移動型 X 線透視診断装置、超音波診断装置、手術用顕微鏡などの手術や診断に必要な機器を整備した。更に、平成 27 年度予算から適用となる社会福祉会計基準導入に必要な会計システム一式を整備した。

また、電子カルテは実質的な運用初年度となったが、大きなトラブルもなく運用できた。電子カルテの導入に併せて導入した、PACS、外来表示盤、会計表示盤、自動精算機の運用も開始された。

検診業務のうち小金井市民検診に予約制を導入し、受検者サービスの向上と業務の効率化を図った。

「桜町マインド」の定着浸透を進める一環として「桜町マインドロゴマーク」を策定した。

#### 2. 業務実績について

入院患者数は延べ数 55,635 人、1 日当たり計画 157 人に対し 152.4 人と▲4.6 人（昨年度比▲3.1 人）、外来患者数は延べ数 113,187 人、1 日当たり計画 398 人に対し 385.0 人と▲13 人（昨年度比▲9.2 人）となった。人間ドックは入院延べ数 26 人（昨年度比+4 人）、外来 627 人（昨年度比▲86 人）となった。小金井市民検診は受検数 1,973 件（昨年度比▲127 件）となった。

無料低額診療としては、入院では生活保護 2,933 人、無料低額 168 人、障害等 4,581 人など、外来では生活保護 3,924 人、無料低額 97 人、障害等 2,283 人などに実施した。

#### 3. 収支状況について

診療単価は入院計画 35,508 円に対し 36,007 円（昨年度比+2,092 円）、外来診療単価は計画 6,037 円に対し 6,038 円（昨年度比+80 円）であった。

入院収益は計画 2,034,786 千円に対し 1,999,282 千円（前年度比+78,375 千円）、外来収益は計画 706,401 千円に対し 683,339 千円（前年度比▲5,082 千円）、全体の収入は医業外収益 75,282 千円、臨時収益 44,394 千円を合わせ計画 3,250,243 千円に対し 3,177,296 千円（前年度比+74,464 千円）であった。

一方、費用面では、人件費は計画 2,051,122 千円に対し 2,021,086 千円(昨年度比+12,452 千円)、診療材料費は計画 405,988 千円に対し 399,291 千円(昨年度比+4,245 千円)、委託費は計画 227,185 千円に対し 222,510 千円(前年度比+1,225 千円)、経費は計画 227,420 千円に対し 208,964 千円(昨年度比+3,891 千円)など全体の支出は計画 3,313,406 千円に対し 3,249,830 千円(昨年度比+91,866 千円)であった。

全収入から全支出を引いた収支差は、計画▲63,163 千円に対し▲72,534 千円(昨年度比▲17,402 千円)であった。

#### 4. さくらまち保育所

さくらまち保育所は、平成 26 年度は、保育士 8 名の体制で 1 日平均保育児数約 10 人の保育を行った。当該年度中に保育所を利用した児童実数は 48 人で、平日保育の他、24 時間保育 75 回、休日保育 44 回を行った。

#### 5. 桜町児童ショートステイ

桜町児童ショートステイは、常勤保育士 3 名、非常勤保育士 1 名の体制で障害児の短期入所及び日中一時支援ともそれぞれ約 300 人の支援を行った。

平成 27 年度から 3 年間の計画で、同ショートステイを利用する多くの障害児が通学する都立小金井特別支援学校が校舎改築移転するため、その間の通学支援方法や費用負担の扱いなどにつき関係市と協議した。

#### 【平成 26 年度活動状況報告】

種別	許可病床数	患者数/日	延患者数	利用率 (H26 度)	利用率 (H25 度)	利用率 (H24 度)
入院	199 床	152.4 人	55,635 人	76.6%	78.1%	79.7%
外来	—	385.0 人	113,187 人	—	—	—

平均在院日数	22.2 日 一般 16.2 日 ホスピス 55.2 日 療養 442.7 日
新入院患者数	2,507 人(前年度 2,370 人)
退院患者数	2,505 人(前年度 2,375 人)
時間外患者数	544 人(前年度 653 人)
紹介率・逆紹介率	紹介 11.1% 逆紹介 9.5%
手術件数	878 件(前年度 836 件)
全麻件数	426 件(前年度 440 件)
分娩件数	483 件(前年度 445 件)
人間ドック件数	入院 13 件(前年度 10 件) 外来 627 件(713 件)

【無料低額診療】 上段：平成26年度 下段：平成25年度

1. 受診人数

新規延人数	新規実人数	継続受診人数
50	13	47
48	10	38

2. 診療科別件数

内科	精神科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科
36	1	0	8	13	3	36
24	4	0	9	27	6	16

3. 依頼者別件数

福祉事務所	社会福祉協議会	難民支援	ホームレス支援団体	他病院	その他	合計
3	7	26	0	0	45	81
3	0	48	0	1	21	73

【職員】 平成26年度年度始め・年度末職員数及び退任・就任状況

区分	平成26年4月1日の職員数			年間退任・就任						平成27年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤	嘱託	正職員		非常勤職員		嘱託		正職員	非常勤	嘱託
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
院長	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
副院長	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
医師	19	46	1	6	4	14	17	0	0	19	39	1
助産師	9	7	0	3	1	3	4	0	0	11	6	0
看護師	67	50	2	18	14	4	10	0	1	69	43	1
准看護師	6	3	3	0	1	2	0	0	0	5	2	3
看護助手	20	8	1	6	4	1	4	0	0	21	4	1
薬剤師	5	2	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0
放射線技師	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0
臨床検査技師	7	3	1	1	0	1	1	0	0	8	3	1
PT・OT・ST	13	3	0	1	0	1	1	1	0	13	3	1
栄養士	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0
MSW	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
事務部	17	6	0	1	1	4	3	0	0	17	7	0
施設	2	1	0	1	0	0	0	0	0	3	1	0
その他	16	37	0	0	1	7	11	1	0	13	33	1
合計	201	166	8	37	26	36	53	2	1	204	143	9

注：就任・退任数には4月1日就任数及び3月31日退任数を含む

事務部の人数は（事務部長・総務課・経理・医事課）

その他の人数は（看護部長室・ORT・診療技術部助手・調理師・調理員・心理士・保育士等）

【患者動向】.

平成 26 年度診療科別患者状況

区 分	入 院		外 来	
	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単価 (円)	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単価 (円)
内科	45.8	25,268	126.6	7,595
	46.0	24,100	132.3	7,577
精神神経科	—	—	38.1	4,919
			40.7	4,893
小児科	2.3	29,016	63.1	4,519
	3.1	28,375	60.8	4,869
外科	12.1	28,266	15.0	6,033
	13.4	28,612	16.3	5,700
整形外科	21.1	44,465	54.0	6,008
	21.6	39,869	49.9	5,879
産婦人科	21.5	76,148	53.7	5,429
	21.2	74,351	59.3	4,669
眼科	0.9	121,186	32.6	5,481
	0.9	89,956	33.7	5,504
ホスピス科	9.8	44,973	1.9	2,740
	11.4	42,472	1.2	2,079
ホスピス内科	2.1	27,194	—	—
	1.0	24,394		
療養	35.8	19,243	—	—
	36.9	18,609		
計	152.4	36,007	385.0	6,038
	155.5	33,915	394.2	5,958

注：上段 26 年度 下段 25 年度

**【機器等整備状況】**

機 器 等 名	数量	新設・更新・増設・修繕	整備部署
移動式X線透視診断装置	1	更新	整形外科
超音波診断装置	1	更新	検査科
手術用顕微鏡	1	更新	眼科
超音波診断装置	1	新設	内科
CMP	1	更新	リハビリ科
内視鏡システム一式	1	更新	産婦人科
ジェネレータセット	1	更新	手術室
シリンジポンプ	7	更新	病棟
検診台	1	増設	産婦人科
超音波洗浄器	1	更新	手術室
福祉大臣	1	新設	経理課
X線管球交換	1	更新	放射線科
シリンジポンプ修理	15	修繕	ME管理室
スチームコンベンション修理	1	修繕	栄養科
生体情報モニター修理	1	修繕	手術室
白内障手術機器（INFINITI）修理	1	修繕	眼科
エコー・電子カルテ接続	1	新設	検査科

**【施設・設備整備状況】**

改修・修繕（修理）・模様替え・補修
産婦人科外来改修工事
産科外来診療ユニット設置
玄関前ロータリー舗装改修工事
整形外科外来流し台撤去
大部屋系統空調機修理（南3階）
別館熱感知器増設工事
本館1階、3階スプリンクラー増設工事
リハビリ跳ね上げ天板カウンターテーブル
言語療法室エアコン設置工事
施設課倉庫改修工事

**【教育研修実施状況】**

研修名(研修タイトル)	年月日	開催場所	出席者数
平成 25 年度院内研究 発表会	26. 5. 24	会議室	46名
個人情報の保護につい て	26. 6. 18	戸塚ホール	30名
医療の安全は接遇から	26. 6. 20	〃	55名
お医者さんのお茶っ子 報告会	26. 6. 30	〃	45名
胃とピロリ菌 新しい糖尿病の薬	26. 7. 12	〃	21名
パソコンと眼の健康管 理	26. 7. 22	〃	56名
BSC研修会	26. 7. 25	〃	15名
救命救急訓練	26. 7. 28	〃	55名
医療事故の初期対応	26. 10. 15	〃	41名
今、危険な感染症	26. 10. 27	〃	57名
褥瘡勉強会	26. 11. 20	〃	21名
血液製剤の取り扱いと 輸血副作用	27. 2. 9	〃	28名
平成 26 年度院内研究 発表会	27. 3. 14	会議室	30名
トリアージ研修会	27. 3. 24	戸塚ホール	70名

**【市民講座】**

研修内容	年月日	開催場所	出席者数
胃とピロリ菌	26. 4. 12	戸塚ホール	22名
薬と上手に付き合う方 法	26. 6. 18	〃	6名
糖尿病と腎臓関係の合 併症 ロコモティブシ ンドローム	27. 3. 28	〃	27名

<さくらまち保育所>

項 目	実 績
保育児数	保育児延べ数 3,356 人（前年度 3,057 人）
	平日 3,146 人 休日 1,760 人
24 時間保育	延べ回数 75 回（前年度 75 回）
	延べ保育児数 182 人（前年度 205 人）
職員数	延べ数 1,228 人（前年度 1,760 人）
行事等	定期健康診断 5 月、11 月
	遠足 10/18 23 人参加（保育児数 12 人）
	クリスマス会 12/20 33 人参加（保育児数 16 人）
	卒園式 3/20 20 人参加（保育児数 11 人）

<桜町児童ショートステイ>

項 目	実 績
短期入所 利用者数	304 人（前年度 309 人）
利用日数	1,006 日（前年度 939 日）
日中一時支援利用者数	299 人（前年度 352 人）
利用日数	613 日（前年度 758 日）
利用者住所地	小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市、その他

## 4. 公益事業部門

### I 小金井訪問看護ステーション（訪問看護）

#### 【平成26年度利用状況報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医保利用者	7	7	9	9	9	10	10	10	10	10	10	11	112
訪問件数	17	27	30	38	38	42	47	38	40	39	36	43	435
介保利用者	63	62	62	64	62	61	64	62	64	62	61	59	746
訪問件数	269	260	270	287	256	245	258	242	242	233	248	253	3063
総訪問件数	286	287	300	325	294	287	305	280	282	272	284	296	3498

#### 【職 員】

正職員 2名

非常勤職員 4名

・常勤職員 就任 1名（3月） 退任 1名（3月）

#### 【施設運営状況】

平成26年度は年度末に常勤者の退職はあったものの、年間通して順調に新規依頼に対応することができたことで訪問件数を維持、予算目標を上回ることとなった。

重点運営方針を以下のように定め、スタッフ全員が訪問件数の維持、資質の向上を意識づけていった。

① 経営の安定を図るため利用者の拡大に努める。

② 医療、福祉の連携の下、地域医療に貢献する。

・桜町病院の看護師の研修の一環として5名の看護師に同行していただいた。その際桜町病院の利用者を選択することで、共に支えている利用者の状況を共有できたと考える。訪問させて頂いた利用者からも「受診の時、訪問した看護師に声をかけてもらえた。」と好評であった。

・桜町病院リハスタッフと派遣契約を結び、介護保険における訪問リハビリを再開した。医療保険におけるリハビリは概ね3か月の期間が定められているが、在宅で過ごす方々を支えることは期限で切れるものではない。桜町病院のリハビリを受けていた方、訪問看護を受けている方を対象者として、月1~4名の方に実施した。訪問看護のスタッフも専門性の高いアドバイスを受けられ、ケアを提供する際に役に立っている。来年度もリハビリスタッフの方の勤務状況を調整しながら継続した事業としていきたいと考えている。

・地域包括システム勉強会へ参加していった。小金井医師会長が中心となり、行政をはじめ、医療、福祉にかかわるメンバーが、これから地域をどう支えていくのかを考えていく会である。目の前の利用者だけでなく、地域を支える視点を持ち、これからの訪問看護を考える役割を頂いたと考えている。



③ 職員の資質・意識向上のため研修・カンファレンスを定例化する。

昨年度より、スタッフそれぞれに1年間の目標を提出してもらい、研修計画を立て実施していった。認知症の利用者が増えていることで、皆が理解を深めたいと考えていたため、研修、専門書で学んだことを学んだそれぞれが講師として研修を実施した。

また認定看護師の資格を持つスタッフには年2回講義を実施してもらった。

ステーションは非常勤者が多く、思うように外部の研修に参加できない者もいたが、個々に目標を定めることで工夫しながら学ぶことができた。職員が目標に向かう姿勢はモチベーションを保つことになったようで、次年度の勤務契約時間を増やすこととなった。

ステーションの職員数が少ない中、年度末の常勤者の退職は打撃であった。幸い、応募があり採用にいたったが、ステーション職員の採用はどのステーションも非常に厳しいのが現状である。平成27年度の介護報酬改定では訪問1件当たりの点数は下がり、医療依存度の高いケース、中重度のケースに対応のできるステーションに加算がつく仕組みとなっている。これまでも常勤者が5名、7名のステーションに加算がつく仕組みとなっており、大規模化しなければ経営が厳しくなる方向に向かっている。職員採用の困難さ、常勤職員を増やした際利用者の確保ができるのかなど課題は大きい。

しかし、ヨハネ会のステーションとしての役割を考えた時、医療、福祉との連携を重視し、利用者から信頼される訪問看護師となっていくことが今後に繋がると考え、臨んだ1年であった。

**【利用者支援状況】**

1. 利用者数（年間登録者）

101名（男 48名 女53名）※前年度101名

2. 利用者の住所

小金井市 100名 ・武蔵野市 1名

3. 主治医（利用者101名）

桜町病院 42名（前年度より +5名）

その他の医療機関病院 21名（前年度より -5名）

市内の開業医院 32名（前年度より -1名）

他市の開業医院 6名（前年度より +1名）

4. 新規利用者紹介もと

平成26年度新規利用者33名（前年度43名）

包括	ケアマネ	医療機関	市役所	個人
4	22	6	0	1

※桜町病院主治医 15名

5. 訪問終了者 35名（前年度 33名）

終了理由

死亡	入院	特養入所	有料ホーム	その他
14	9	6	6	0

【施設整備状況】

・電動自転車 1台

【教育研修】

研修名	年月日	場所	出席者
経腸栄養（大塚製薬）	2014/5/22	ステーション内	スタッフ 全員
認知症・摂食・嚥下	2014/5/27	小金井市民交流センター	山中布美子
認知症・摂食・嚥下	2014/6/5	ステーション内	スタッフ 全員
認知症・せん妄	2014/6/6	都立多摩総合医療センター	福川美津子
認知症・せん妄	2014/6/19	ステーション内	スタッフ 全員
癌性疼痛 1	2014/6/19	ステーション内	スタッフ 全員
精神科訪問看護	2014/8/29・30・31	東京工科大学	山中布美子
癌性疼痛 2	2014/9/18	ステーション内	スタッフ 全員
I C F	2015/1/15	ステーション内	スタッフ 全員
認知症事例分析	2015/2/19	ステーション内	スタッフ 全員
訪問看護管理者研修	2015/3/18	日本医師会館	當山典子
新任研修	2015/3/23	桜町病院・包括・桜町センター	福田久美子

## I 聖ヨハネホスピスケア研究所

### 【平成26年度活動状況報告】

#### 1) ホスピスセミナー

医療関係者以外に一般市民、看護学生など対象に実施。

計8回実施。 参加者245名

#### 2) 医師研修

「ホスピス緩和ケアドクター養成研修」 (笹川記念保健協力財団助成事業)

1年間を通し、ホスピス緩和ケアの理念、および知識・技術を学ぶ。

平成26年度はなし。

#### 3) 音楽療法

非常勤研究員の音楽療法士による、入院患者1人1人のニーズに応える個別の音楽療法

「音楽宅配便」を、基本的に週1回実施した。

#### 4) 講演会

ケアタウン小平と共催にて実施。

テーマ「渡辺和子 いのちを語る」 講師：渡辺和子先生

(3月5日 小金井市民交流センター 大ホール) 参加者 528名

#### 5) 学会発表・研究

平成26年度はなし。

#### 6) ホスピスボランティア講座

聖ヨハネホスピスと共催で5月～6月の2ヶ月間に計7回の講習を実施。

参加者 28名

#### 7) 「アロマセラピー」の取り組み

病棟スタッフと委託研究員のアロマセラピスト1名と共に、

患者・家族へアロマセラピーを毎月1回実践。

#### 8) 研修会の実施

主に在宅医療・療養に従事する職業を対象に、以下の4回の研修会を実施した。

a) 「よくわかる！スピリチュアルペインとそのケア」 (8月 山崎所長)

参加者 24名

b) 「終末期がん患者さん・ご家族へのケア」

(10月 山崎所長・ケアタウン小平訪問看護ステーション樋口敬子様

・ホスピス病棟近藤看護師) 参加者 31名

c) 「終末期がん患者さん・ご家族へのケアのポイント」

(12月 山崎所長・ケアタウン小平訪問看護ステーション樋口敬子様・

ホスピス病棟近藤看護師) 参加者 38名 (広報地域を変えて募集)

d) 「どう支える 看取りまでの1週間」

(聖ヨハネホスピスと共催 1月 三枝先生)

参加者 27名

### 【職員】【施設運営状況】【施設整備状況】

特になし。

## 5. 収益事業部門

施設名 : シニアハイムさくら	(高齢者賃貸住宅)
-----------------	-----------

### 【施設運営】

小金井の地で医療・介護・福祉サービスを展開している中で、入院や特養入所にいたる前の段階で小規模でも安心して生活できる場の形成が必要との考えから、高齢者賃貸住宅を提供することの意義があると考え昨年度より本事業をスタートした。老後を自宅又は小金井市内にて居住したいとの要望は大変高いが、全くの在宅独居の生活は不安だという高齢者の方の住まいが求められており、高齢福祉部門としても介護保険事業だけでは本来目指そうとしている高齢者の安心につながるサポートを充実できないという考えでこの事業を開始した。対象者は自立された方で在宅介護サービスを利用し自立生活可能な方とし、介護スタッフは配置せず管理人を配置し、ケアマネジャーは桜町ケアマネジメントセンターが基本的に受け持つという基本方針を進めることとなった。

今年度は1室が空き状態となり、80%の入所率となった。

居室は全個室で5戸。現在、5名の受付ボランティアが月曜日～土曜日の10:30～16:00常駐し対応して頂いている。今後は、法人内のサービス連携（デイサービス、配食等）をより具体的に進めていきたい。

### 【平成26年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	平成25年度利用率
シニアハイムさくら	5室	4名	80.0%

### 【施設整備状況】

特になし

### 三 理事会並びに評議員会

#### 1 理事会

第 283 回 平成 26 年 5 月 23 日（金） 本館戸塚ホール

（報告）1 理事長専決事項の経過報告について

（平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

2 監事の欠員補充について

（議案）1 平成 25 年度事業報告について

2 平成 25 年度決算報告について

3 平成 25 年度決算監事監査報告について

4 高齢福祉部門改善プロジェクトについて

5 小金井聖ヨハネ支援センターの入札について

6 小金井聖ヨハネ支援センター建設に関する（独）福祉医療機構からの借入について

第 284 回 平成 26 年 6 月 18 日（水） 本館戸塚ホール

（議案）1 小金井聖ヨハネ支援センター新築工事の予定価格について

第 285 回 平成 26 年 7 月 4 日（金） 本館戸塚ホール

（議案）1 小金井聖ヨハネ支援センター新築工事の契約書について

第 286 回 平成 26 年 11 月 28 日（金） 本館戸塚ホール

（報告）1 平成 26 年度上半期実績報告について

2 高齢福祉部門財務改善プロジェクトの進捗状況について

3 小金井聖ヨハネ支援センター厨房設備入札結果について

4 理事長専決事項の経過報告について

（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）

（議案）1 平成 26 年度補正予算について

2 基本財産の表示変更について

3 定款変更認可申請について

4 諸規程の制定及び改訂について

(1)相談支援事業「ふらっとヨハネ」運営規程

(2)障害者地域生活支援センター 有期雇用契約職員就業規則

(3)富士聖ヨハネ学園 給与規程

(4)障害者地域生活支援センター 職員就業規則

第 287 回 平成 27 年 3 月 20 日（金） 本館戸塚ホール

（議案）1 平成 27 年度事業計画について

2 平成 27 年度予算について

3 諸規程の改訂について

- (1) 経理規程
- (2) 高齢福祉部門 組織規程
- (3)       "       就業規則
- (4)       "       給与規程
- (5) 障害福祉部門 組織規程
- (6) 富士聖ヨハネ学園 非常勤職員就業規則
- (7) ハラスメント防止規程
- (8) 富士聖ヨハネ学園マイカー通勤管理規程
- (9) 小金井聖ヨハネケアビレッジ運営規程
- (10) 清瀬聖ヨハネケアビレッジ運営規程
- (11) 小金井聖ヨハネ支援センター就労移行支援事業運営規程
- (12)               "               就労継続B型事業運営規程
- (13)               "               生活介護事業運営規程
- (14)               "               短期入所運営規程

理事及び監事一覧（任期：平成27年5月31日まで）

理事長	渡邊元子				
理事	百瀬雄次	柏本洋子	池田順子	横山文彦	竹川和宏
	藤井律治	小林宗光	角張洋和		
監事	村松光春	駒村 裕	小俣敏行		

## 2 評議員会

第 82 回 平成 26 年 5 月 23 日 (金) 本館戸塚ホール

- (議案) 1 平成 25 年度事業報告について  
2 平成 25 年度決算報告について  
3 平成 25 年度決算監事監査報告について  
4 高齢福祉部門改善プロジェクトについて  
5 監事の欠員補充について

第 83 回 平成 26 年 11 月 28 日 (金) 本館戸塚ホール

- (報告) 1 平成 26 年度上半期実績報告について  
2 高齢福祉部門改善プロジェクトの進捗状況について  
(議案) 1 平成 26 年度補正予算について  
2 基本財産の表示変更について  
3 定款変更認可申請について

第 84 回 平成 27 年 3 月 20 日 (金) 本館戸塚ホール

- (議案) 1 平成 27 年度事業計画について  
2 平成 27 年度予算について  
3 諸規程の改訂について  
(1) 経理規程  
(2) 高齢福祉部門 組織規程  
(3) " 就業規則  
(4) " 給与規程  
(5) 障害福祉部門 組織規程  
(6) 富士聖ヨハネ学園 非常勤職員就業規則

評議員一覧 (任期：平成 27 年 5 月 31 日まで)

更田義彦	浜上光明	濱本隆三	宮本 誠	篠原 熙
保坂正克	富田周次	西田和子	吉田昌克	藤田太郎
清水 洋	渡邊元子	百瀬雄次	柏本洋子	池田順子
横山文彦	竹川和宏	藤井律治	小林宗光	

## 四 経営会議

平成 26 年 4 月 22 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 26 年 2 月度）について
- 2 火災保険料について
- （議案）1 監事監査及び決算理事会スケジュールについて

平成 26 年 5 月 27 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 26 年 3 月度）について
- （議案）1 寄付申込書の様式について
- 2 新会計基準移行に伴う勘定科目の整理について
- 3 監事監査での指摘事項について

平成 26 年 6 月 24 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 26 年 4 月度）について
- （議案）1 「社会福祉法人の認可について」の一部改正について
- 2 寄付申込書の様式について

平成 26 年 7 月 29 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 26 年 5 月度）について
- （議案）1 法人のレクリエーションについて

平成 26 年 8 月 19 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 26 年 6 月度）について
- （議案）1 法人のレクリエーションについて
- 2 小金井地域包括ケアシステム研究会について

平成 26 年 9 月 16 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 26 年 7 月度）について
- （議案）1 新会計基準の勘定科目整理について
- 2 社会貢献事業について

平成 26 年 10 月 21 日（火）開催 本館戸塚ホール

- （報告）1 月次報告（平成 25 年 8 月度）について
- （議案）1 上半期実績報告及び補正予算について
- 2 新会計基準の勘定科目整理について
- 3 平成 27 年度以降の予算書フォーマットについて
- 4 法人携帯電話コスト削減案について
- 5 法人ホームページのブログについて



平成 26 年 11 月 18 日（火）開催 本館戸塚ホール

（報告）1 月次報告（平成 26 年 9 月度）について

（議案）1 上半期実績報告及び補正予算について

平成 26 年 12 月 17 日（火）開催 本館戸塚ホール

（報告）1 月次報告（平成 26 年 10 月度）について

（議案）1 新会計基準の科目処理ヒヤリングについて

2 レクリエーション（ボーリング大会）報告と今後の実施について

3 法人研修計画について

4 ハラスメント防止規程について

平成 27 年 1 月 20 日（火）開催 本館戸塚ホール

（報告）1 月次報告（平成 26 年 11 月度）について

（議案）1 ハラスメント防止規程について

2 小金井地域包括ケアシステムについて

3 一般事業主行動計画について

平成 27 年 2 月 17 日（火）開催 本館戸塚ホール

（報告）1 月次報告（平成 26 年 12 月度）について

（議案）1 ハラスメント防止規程について

2 地域包括ケアシステムについて

3 一般事業主行動計画について

4 平成 27 年度事業計画・予算ヒヤリング日程について

平成 27 年 3 月 17 日（火）開催 本館戸塚ホール

（報告）1 月次報告（平成 27 年 1 月度）について

2 一般事業主行動計画について

（議案）1 3 月 20 日の理事会・評議員会について

2 来年度の火災保険について

3 平成 27 年度入職式について

4 平成 26 年度監事監査について

5 平成 27 年度の経営会議メンバーについて

## 経営会議メンバー一覧

議長	渡邊元子（理事長）
法人本部	竹川和宏（事務局長）
医療部門	小林宗光（桜町病院院長） 瀬口秀孝（桜町病院副院長） 富田周次（桜町病院事務部長）
高齢福祉部門	相松幸子（高齢福祉部門特任施設長） 藤井律治（桜町聖ヨハネホーム園長） 藤井律治（桜町高齢者在宅サービスセンター長） 山極愛郎（本町高齢者在宅サービスセンター長）
障害福祉部門	角張洋和（富士聖ヨハネ学園長） 小野貞行（富士聖ヨハネ学園総務部長） 三浦和行（障害者地域生活支援センター長） 勝見 正（障害者地域生活支援センター副センター長）